

会議議事録

日時	令和7年5月10日（土）16：30～20：30
場所	福島市民センター大ホール
開催	先達山を注視する会 第三回報告会
出席者	■ 先達山を注視する会：松谷基和、梅宮毅、松浦陽一 ■ Amp 株式会社： - 日本法人代表 マルティン・シュタイン - 法務部長 長谷部剛 - プロジェクトマネジメント部シニアプロジェクトマネージャー 鈴木英樹 ■ 参加住民：154 名

会議記録

先注会・松谷

それでは、定刻となりましたので、ただ今より先達山を注視する会の第3回報告会を兼ねて、Amp社の日本事業代表者であるマルティン・シュタイン氏とその社員をお迎えしての対話会を開催します。私、司会も務めますし、当会の代表を務めております松谷です。よろしくお願いいたします。

先注会・梅宮

副代表しております梅宮と申します。本日よろしくお願いいたします。

先注会・松浦

同じく副代表をしています松浦と申します。よろしくお願いいたします。

Amp マルティン・シュタイン

私、シュタインと申しまして、Ampの日本の代表しております。皆さん、忙しい中で、土曜日でお時間ありがとうございます。

Amp 長谷部

前回同様、法務担当しております長谷部です。よろしくお願いいたします。

Amp 鈴木

私、前回同様、本件の現場担当しております鈴木です。よろしくお願いいたします。

先注会・松谷

ありがとうございました。本当に、遠方から来てくださったこと、本当に感謝いたします。まず、開会に先立って若干の注意事項、ここにある通り、既にお目通しと思いますが、たくさんカメラがあって録画されております。後から質疑の時間ございますので、その際に、あんまり名前とか所属明かしたくないかとおられるかもしれませんが、その際には匿名で構いません。ここに参加できなかった住民も多くいますので、後でYouTubeを私たちのサイト通じて公開したいと思っていますので、その点改めてご了承ください。それでは、対話会の方、着席して始めさせていただきます。まず、マルティン・シュタインとの対話でございます。私たちの先達山を注視する会の会議に初めて参加される方もいらっしゃると思うんですけども、実はこの対話ってあるんですが、続いてシリーズになっています。私たちの会ってというのは、この注視という響きがストップするもの、中止だと思われるんで、Amp社の方も多少誤解されているところもあると思うんですけど、注目して視るっていう、いわゆるウォッチするっていう意味で、住民にとって非常に気になることを率直に追及し、わからないことあったら質問し、それを仲間たちに伝えるという活動していることであります。私たちのこの対話会、今までの経緯っていうのがあるので、若干、今日の前半、私たちここでディスカッション、議論するんですけども、その前提にあるのは、すでにもう2回ほど私たち報告会開いていますし、Amp社とも直接3月13日に対話しておりますので、その時に色々私たちなりに考えたこととか、調べた事実っていうのは、皆さんもご覧になったかと思いますが、こちらの先達山を注視する会っていう、このサイトがあります。スマホで見ると、なんか、この上の方の新着情報だけ見て終わる方がいて。実は大事なのは1番下なんです。この下に、今までの対話会の記録とか、議事録とかです。ね、全て出ていますので、今日、私たちがこれからシュタイン氏始め、質問する内容っていうのは、実はここに踏まえての質問だったり、あとは、ここで問いかけしただけにまだ答えがないんで、ここの場で確認させてくださいっていうような内容が出てきますので、話しながら見るってわけにいかないですけど、休み時間とかですね、家帰った後にはそういう話なのかっていうので、もし若干文脈がわからなくてわかりづらいところあったときには、後日ご自分で確かめたり確認していただけるといいなと思っています。で、今後とも、私たち、今日の会も含めて、得られた情報を順次公開してまいりますので、最初にそのこと申し上げておきます。では、戻ります。よろしいでしょうか。じゃ、シュタインさん、本当に今日はありがとうございます。最初にシュタインさんにお伺いしたいのは、今日いらっしゃる時になんで自分ここに呼ばれて来ていらっしゃるのかなっていう風にお考えなのか、そこからお尋ねしたいと思います。

Amp マルティン・シュタイン

すいません、ちょっと下手な日本語で言葉は間違っているし、ちょっと出てこないのもあるのでそこは許してください。今日はなぜ。我々も本当に何年間、こちらもそうですし、いろんなところもみんな仕事をやっていますし、我々は今日、ここに来ているのは、皆

さんの質問とか、皆さんとミーティングしたいと思っていますし、なんでもぜひ聞いてください。できるもの、本当に精いっぱい頑張りますので。

先注会・松谷

わかりました。ありがとうございます。では Amp 社の先達山開発に疑問を持つ住民の存在っていうのはいつ頃からご存知でしたか。

Amp マルティン・シュタイン

皆さんと一緒にですね。多分、この会が立ち上がってから、我々にも皆さんの質問が来ているので、多分皆さんと一緒にのタイミングですね。

先注会・松谷

もっとずっと前から反対署名運動があったり、そうした姿勢がなされていますけど。

Amp 長谷部

ごめんなさい、ちょっと補足しますが、今マルティンが皆さんと言ったのは我々、こっちの話です。

先注会・松谷

ごめんなさい、最初シュタインさんからお願いいたします。それでシュタインさんが答えられないっていうことであれば、長谷部さんって、そういう順番でお願いします。

先注会・松谷

福島市に、こうした先達山開発に疑問を持つ方がいるっていうことを、シュタインさんはいつの時点で把握されました？

Amp マルティン・シュタイン

はい、これも言った通り、我々の Amp と同じタイミング。私もだいぶ前聞いておりますので。一緒ですね。Amp の皆さんと一緒にです。

先注会・松谷

4 年前とかそのぐらいから福島で反対の運動とか署名があるってことはご存知だった？

Amp マルティン・シュタイン

4 年前はないんですけども。

先注会・松谷

だといつ頃からですか、反対運動が。

Amp マルティン・シュタイン

反対というより、こういう会は多分一年とか。

先注会・松谷

分かりました。1年前から福島市で反対があるっていうことを知ったんですね。

Amp マルティン・シュタイン

私の理解ではこういう質問が来たり、我々が答えたりというのは、それぐらいになっています。

先注会・松谷

じゃあ、シュタインさんもそういった住民から質問された時に、今日以前にも来られて住民と直接お話されたことがあったんですか。

Amp マルティン・シュタイン

今日が初めてです。

先注会・松谷

初めて。分かりました。鈴木さんと、今日いらっしゃっていませんが、前回いらっしゃった谷口さんっていう方、あと長谷部さん、今は鈴木さん、長谷部さんいらっしゃっていますけど、この方達からこの福島で起きていることの報告っていうのはどのぐらいの頻度で受けていますか。

Amp マルティン・シュタイン

もちろん我々毎週話していますので、そこは毎週のミーティングで。

先注会・松谷

毎週もミーティングしていて、福島市で反対があるとか、そういうことやるってことを知ったのが1年前。

Amp マルティン・シュタイン

その辺も理解はちょっとだけ違って、その反対の質問に関して我々が答えています。こうするのはどういう風にした方がいいですか。そういうのは、もちろん。

先注会・松谷

具体的に聞きますね。反対署名を集めて提出したりするようなことを住民の中でやっている方がいます。そういったことをその1週間に1回やっていて、話を聞いていて、つい最近になって知った？1年前？

Amp マルティン・シュタイン

はい。

先注会・松谷

はい、分かりました。

参加者

報告受けてなかったんですね。

先注会・松谷

これまでの Amp 社の地元対応ですね。この3人の方が主にされていて、長谷部さんは最近かと思いますが、鈴木さんが特にされてきた Amp 社の先達山に関する地元対応というのをトップとしてどういう風に評価されていますか。

Amp マルティン・シュタイン

「こういう質問があります」とか「我々としてはこれもやらないといけません」というのはもちろん報告されていますし、それに関して、しっかり我々会社として投資家さん、建設会社の皆さんとちゃんと返答できるようになっています。

先注会・松谷

簡単に言います。鈴木さんとか谷口さんはすごくいい仕事をしている、地元の対応をよくやっているっていう風に評価されています？

Amp マルティン・シュタイン

はい。私に個人的には、鈴木さん、長谷部さんは精いっぱい仕事をしています。

先注会・松谷

ありがとうございます。前回の対話会の時に市民から質問が出たのに対して、長谷部さんが、景観とか環境が心配であったのに対して、法律上は所有権を持っている人なんで、所有者は何をやっても基本的にはいいんだと。自分が個人的には思い入れのある山でも自分

の持ち物でもないのに、景色変わったぐらいで残念だと思うぐらいで、要するに、私たちにはそれを言う権利もないし、言う必要もないというニュアンスでおっしゃっていましたが、シュタインさんも同じようなお考えですか。

Amp マルティン・シュタイン

我々は、繰り返しになるんですけども、ルールとか法律に従って精いっぱい、皆さんの質問とか聞きながら仕事やっているので、多分言い方色々ありますけども、我々としては、仕事を精いっぱいやってると思っています。

先注会・松谷

分かりました。同じようなことを繰り返して長谷部さんおっしゃっていて、私たちは第三者の所有地を眺めているだけの人間なので、そもそも何ら権利関係を持ってない、法令上の手段手続きを要求している訳じゃないので、私達のことを相手にする必要はないという風におっしゃっていますが、私達のこと、今日相手してくださってるように感じますけど、シュタインさんのお考えはいかがですか。私達、法律家として見た場合に、景色とか環境について言う権利がない人間という風におっしゃられています。シュタインさんは法律家じゃなくて事業のトップとしてどのようにお考えですか。

Amp マルティン・シュタイン

いや、我々そういう風に思ったらここにいませんし、我々ちゃんと毎回話を聞いて、皆さん、長谷部さん、鈴木さんも一緒だと思います。

先注会・松谷

ありがとうございます。そう言っていただければ安心です。これは法律家としてっていう前置きがあるので。私も、法律家としてでも、少なくとも住民から問い合わせたこととか質問し続けると、こういう反応あるってことは一瞬驚いて。ただ、長谷部さんのためにも。確かに長谷部さんこう言った後で、でも会社としてはそういう対応したいっておっしゃっているんで、どっちを信じていいのかっていうと、最終的にはこちら信じていいかなと思うんで、今後とも対応を続けられるっていうのはまず最初の確認です。

Amp 長谷部

ごめんなさい、一言だけ。誤解を招くとあれなんですけど、法律家としてどう考えますか、と聞かれたので、法律上はそういう風に第三者で所有に関して所有権を持っている人がその土地を使うのは原則自由ですってという趣旨で回答しています。景色を眺めているからとは、当然、分かりやすく言うと、隣の家の庭がどうしても、その隣の方の自由じゃないですか。そういう趣旨でお答えはしています。なので、そういう意味で法律家として対

応はしていますけれども、我々社員は、地元の方々と話を聞きながら開発を進めていくという姿勢でこれまでもやってきておりますし、これからもやるつもりでおりますので、そういった趣旨で今日も来ております。

先注会・松谷

ですから。私、フォローしています。既に。大丈夫です。また、ただ、1つお伺いしたいのは、法律家とか弁護士名乗る人が、まずこの住民対話の段階から出てきて、おたく権利ないからっていうことを、住民に対応するところに法務担当の弁護士が出てきて直接喋ったりですね。こういうやり取りするのって、別に訴訟も何も始まってないのにすごく不思議な対応をする会社だなって思っていますけど、この点について、法務担当がここまで来て現場で住民に対応しているっていうのは、シュタインさん、なぜこの会社はそうなんですか。

Amp マルティン・シュタイン

そこは、多分ちょっと理解が違って、どちらかというと長谷部さんが我々の Amp 株式会社の中でマネジメントのシニアの人としてたまたま、言い方はちょっと変かもしれないけど、たまたま弁護士さんでいて、私の理解だと、特に弁護士さんとして来てなくて、本当にもう Amp 社員としてシニアの方で皆さんの答えとかに答える、別に弁護士で来ているっていう理解ではない。

先注会・松谷

よかったです、それ聞けてね。最初からデビューする時から法務担当で弁護士で、これから私が変わりますっていう形だったんで、不思議だなと思ったんですけど、たまたまっていうことですね。昨日現場視察に行ったときに、私達いろいろ質問をしたところ、いや、我々は県の許可得てやっているんだと。文句あるなら県に言ってくれと。県からも、逆にですよ、県庁の職員が、おたくは許可得てやっているのに、なんで今でも住民のクレーム対応しているのか、そんなこと必要がないと言われているんだと。嫌でしょうがないけど、それでも対応してやっていると。私がここでそのような発言したのは、県のどの部署の誰かと聞くとそれは言えないと。でも、本当にこんな事実があるんですか。

Amp マルティン・シュタイン

質問としては、我々がこういう会に関してどう思っているっていう？

先注会・松谷

これ、シュタインさんじゃなくても、お隣にいらっしゃるんで。お2人がいるところで、私達8人のグループ行った時に基本的にこういう会話がなされた。それに対して、これ事

実なんですか。本当に県の方は住民対応なんてもうしなくていいよと、許可与えているんだから。そういうこと言っているんですか。

Amp 鈴木

すいません、昨日のお話の内容のことだと思うんですけども、県の人ではないですね。行政の方に雑談の中でそういう話があったのでお答えしたということをお話したまでです。

先注会・松谷

県ではなくて市ですか？

Amp 鈴木

その点に関してはお答えできませんということで、昨日松谷先生にお話したと思いますけど、お忘れでしょうか。

先注会・松谷

でも嫌で嫌でしかたないし、それでも対応していると、頑張ってる。そういうお立場ですよ。ね。

Amp 鈴木

ちゃんと言葉の全てをお話してほしいと思うんですけども、そういう話があったけれども、引き続きこれからも、今までも対話はしていきますよというお話をした記憶があるんですけども、松谷先生はその部分はお忘れでしょうか。

先注会・松谷

後で8人もね、一緒にいるとこだったんで聞いてみましょう。いいです、それだったら。まあ、1月14日に鈴木さん、こうおっしゃったね。基本的には県と市にたくさん問い合わせが来ることが多いので、その市の職員さんとか県の職員さんに負担がかからないように、問い合わせが入ったら私の携帯番号教えてください。メールアドレスと。というオペレーションにしている。要は自分とくに全部ね。行政に問い合わせたら来てください。そういった方が、ときどき発言違うんで、何を信じていいのかわかんないなって。いつも Amp 社と話すときには。全てシュタインさんにもご存じかどうか。言うこと変わるんですよ。状況状況に応じて。ですから私達、誰と話して誰信じていいかわかんないんで、今日、トップの方に来ていただいています。ちなみに、県に対して、私達、この集会も含めて、ぜひ来ていただきたいということを前回も言っていますが、事業者にも、全部説明もお願いしてあるんで、自分たちは対応しないというのが県の正式な今の立場です。ですから今日も、もしかしていらっしゃってくださったら嬉しいですけど、県の職員の方はいらっしゃって

くださってないようです。全部あとは業者がやるからというのが県の立場のようです。次行きます。私たち、1月14日に初めてAmp社と出会いました。奥村組の事務所で、この時に、非常に奥村組の方とか東芝の担当の方が我々の後ろをぐるっと囲んでですね、非常に威圧的で感じ悪かった。それは前にお話ししました。でもそのことは問わない。ただ、その時に、私たちの知らないところでそのオンライン中継がなされていて、Ampとか東芝プラントの方が結果的に後から私達から言うところと隠れて見ていたみたいなので、おかしいよねと、そういうので抗議したことがあります。こういった内容についても既にホームページで公開していますが、その後にAmp社から、昨日の話した説明会の内容は全部機密事項だから、一切他に漏らすなよという内容の誓約書を私たちに書けというのが送られてきます。私達はこれに1番驚いて、対話を求めている会社がこんなことするわけないっていうのが、私たちの最初のこの調査活動とかの始まりになった1番のきっかけです。

って。私たちストップ求めてんじゃない。最初から聞こうと思っているのに、聞いたことをみんなと分かち合うと思っているのに、それを許さないっていう姿勢を、事後的にこれに署名しろと。そういう風になったので、私たちは非常におかしな会社だなと思いました。このことについて、今日まで全く問題を認めていません。シュタインさん、住民との対話会に話した内容、今日のある種の対話会ですね、こういうの、機密事項でどこに話してもいけない、こういうことを住民に誓約させる。これ、どういう理由で。これが正しい住民対話のあり方だと思います？Amp社として。

Amp マルティン・シュタイン

すいません、これ、我々の意見でも回答しておりますので、これ多分ちょっと、今回はちょっと法律的な多分質問になるので、あまり私は答えてもあれですけど、多分回答している。

Amp 長谷部

メールでも回答しています。そもそもの話として、1月14日に説明した内容に関しまして、技術的な、要は、いわゆる一般的に機密情報と言われる企業秘密ですかね、そういった情報も含まれるので、そういったことに関しては外部に開示しないでくださいねと。後で誓約書を作るので書いてくださいねということでお願いして、そこはご了承いただいております。ここは了解されているという風に伺っています。

先注会・松谷

いいです、もう、もういいです。メールで回答されている内容は、今インターネットに全部出てます。

Amp 長谷部

人の話ちゃんと聞いてください。自分に都合が悪いからって人の話切らないでくださいよ。ちゃんと説明しているので。メールでも回答していますし。そういう趣旨で、秘密情報に関して外部に公開されたら困りますので、これ一般常識の話ですよね、会社として企業秘密を扱っている内容もお話するので、そこに関してはお話をしないでくださいと、それをお願いをしたんですけども、それを勘違いされているのかわからないですけど、この説明をメールでも何回も繰り返しています。それに対して回答してないという風に今おっしゃられているので、我々としてはこの人何言ってんだろうっていう風に考えていると、そういったところです。

先注会・松谷

よくおっしゃいますね。この人何言ってんだろうね。いいですよ。じゃあ今日ね、今こう話しているところ、住民の対話の会で、御社が守りたい秘密情報ってなんですか。

Amp 長谷部

今私が言った話を多分聞いてなかったのかわかんないんですけども。

参加者

聞いていました。

先注会・松谷

まあいいじゃないですか。言わせてあげてください。

Amp 長谷部

公開していいって言っていますし、前回も同様に言っていますし、報道陣も入っていますし、今言った内容、別に話してもいいですけども、前回はその工事現場の話ですので、そういったところの機密情報があるので、そこに関してはご配慮くださいという風にお願いしています。なので、ちょっと話が違うことを混同されているようですけれども。今日の話については別に何も包み隠さずお話していますし、前回同様ですね。前回も包み隠さずお話していますし、報道もされていますし、公開もされていますし、特に隠してははないということ。

先注会・松谷

シュタインさん、フォローしなくていいですか。これ。次行きますよ。このままで。

Amp マルティン・シュタイン

はい、その通り。今のお話の通り。

先注会・松谷

了解です。トップもそういう回答を容認された。次、マルティン・シュタインさんいらっしゃるんで、色々伺いたいことがあります。ホームページのご紹介見ると色々と略歴が書いてあって、主な元の新生銀行の社員だったこととか、再エ事業に対する投資の仕事を主にやっていたとかですね。そういったご説明されています。このぐらいのことだったんですが、せっかくいらっしゃるんで、元々の出身、背景、経歴、もうちょっと詳しく教えていただけますか。

Amp マルティン・シュタイン

はい、大丈夫です。私、そこに書いてある通り、Amp 株式会社に 2017 年に入って、その前が、当時、新生銀行、今 SBI 新生銀行ですけれども、その前も銀行でした。オランダの銀行、ID 銀行に、ロンドンの支店にいたんです。日本に引っ越したのは、すいません、日本来たのはその 10 年前の 2007 年です。もう 20 年、日本にずっといます。出身がヨーロッパのチェコで、そこから大学とか、初めての仕事はイギリスのロンドンでした。

先注会・松谷

ありがとうございます。修士号って専門何されていたんですか。

Amp マルティン・シュタイン

専門はエコノミクスになります。

先注会・松谷

新生銀行から Amp 社の日本代代表、事業代表者に移られた経緯ってというのはどういうことだったんですか。

Amp マルティン・シュタイン

私は、銀行がいわゆるプロジェクトファイナンス、クリーンエネルギーの仕事をずっとしておりまして、それがすごくもっとやりたいという思い出で、Amp 社という会社に移したっていう。

先注会・松谷

はい、ありがとうございます。今も事業代表者っておっしゃっていて、社長、取締役を名乗らない理由はなんですか。

Amp マルティン・シュタイン

私は社長でして、またいうところの CEO になりますけれども、多分、よくあるガバナンスっていうか、その投資家の方々が分けるっていうのは、多分ちょっと日本の会社とは違って、海外の会社ってそういうのはあって、要は我々のそのオールドダイレクター、その代表が代表者になるっていうスクリプトでやっているんで、そういう理由でそうになっています。

先注会・松谷

要は日本の社会で一般的な認識とは違う、投資家向けにとか、その金融業界とかで使われている分類に従った役職だと、代表っていう、そういうご説明ですか。

Amp 長谷部

別にこれ、タイトルの付け方の問題なので、マルティンが日本の事業のトップだよっていうことがわかっていただければそれでいいのかなという風に考えています。

先注会・松谷

じゃあこういう理解でいいですね。事業代表は社長だし、経営責任者だと、こういう理解でいいんですね。じゃあ、取締役会って存在しますか。Amp 日本法人に。

Amp マルティン・シュタイン

私も取締役もやっていますので。もちろん。はい。

先注会・松谷

取締役になられたのはいつですか。

Amp マルティン・シュタイン

24 年の 10 月です。

先注会・松谷

半年前ですね。半年前に取締役になった。でもその前からずっと日本事業を代表して名乗っていますよね。それはどうして。

Amp 長谷部

これ単純に 2024 年の 10 月に組織変更して取締役を増やしたので、そのタイミングでマルティンが取締役に入ったというそれだけの話です。

先注会・松谷

じゃあ、その前から Amp 法人立ち上げた時から正式な社長、経営責任者っていうのがマルティン・シュタインさんだった？

Amp 長谷部

そうですね。前任に笠松という人間がいたんですけど、マルティンに変わってからはずっと日本の事業のトップとして、Amp 株式会社、日本法人を率いています。

先注会・松谷

その取締役になる前は誰が取締役だったんですか。

Amp 長谷部

その時はポールというカナダ本国の人間が登記上は代表取締役社長になってますので、彼が登記上の代表取締役社長です。ただ、彼とずっとカナダにいますので、日本にいる人が日本の事業の動向を見ないといけないということで、マルティンがずっと日本で日本事業を見た、そういった形になります。

先注会・松谷

非常にわかりづらいと思うんですけど、形式だけ一応でも登記されているってことは、その人が経営の責任者ってことになりますよね、法人として。だけど、その法人の本当の登記されている代表者とは別に事業代表者っているわけですから、こういった構図は初期にはなかったですよ。事業代表者と経営責任者ポールっていうのはついこの前の、半年前にマルティンさんが取締役になった時からはこれかもしれませんが、それ以前の、その先達山の開発が始まった頃ですね。別に代表者、社長とか経営責任者じゃないですよ。そのポール・エゼキエルさんが取締役で代表だったんですよ。本当の意味での。

Amp 長谷部

いや、だから、登記上の代表者と実際事業をする責任者って別っていうのは、別にどこの話でもありますね。別に日本の会社でも。

先注会・松谷

ごめんなさい、長谷部さん、もう少しゆっくり目にはっきりと喋らないと多分会場聞きづらいと思います。

Amp 長谷部

なので、別にその登記上の代表者いますよね。登記上の代表者が必ずしも事業の責任者であるっていう必要は全くないです。登記上の責任者と代表者と、事業の責任者が別って

うところは別に社会一般的にも存在していますので、そこ変だと言われましても、別に変だとは思わないですけど。それだけの話です。

先注会・松谷

逆に一致させなかった理由ってなんですか。名前だけカナダにいるポールさんっていう人が取締役の会社作っというて、でも実際そこには名前が上がってこない会社責任負わないマルティンさんが日本事業の代表者ってことであちこちで事業を始めている。一致させなかった理由は何ですか。

Amp 長谷部

元々、カナダの法人が日本で事業するって出てきたときに日本に Amp 株式会社を立ち上げているんですけども、その段階では立ち上げていく人間がいませんので、本部の人間しかいませんので、本部の人間が代表者をしていたと。そのままずっと名前を借りていたままだったので変えてなかったというだけです。

先注会・松谷

決算報告を公開しない理由はなんですか。

Amp 長谷部

これ別に報告している会社もあれば、しない会社もあります。それ、別に会社により自由ですので、うちは公開してないっていうそれだけの話です。

先注会・松谷

もちろんそういう会社があるのを知らないって聞いているわけじゃなくて、でもしている会社もありますよね。それは社会的信頼を得たり、より多くの投資家からの信頼を得たり、そういうために決算報告する。それが株式会社じゃないですか。株式会社名乗っていて、していない会社もあるけど、Amp 社も他がしてないからしないってことですか。

Amp 長谷部

いや、だから今お答えした通りで、する会社もあればしない会社もあって、それぞれ会社はしたいと思えばしますし、そういう必要ないと思えばしないだけの話です。

先注会・松谷

シュタインさんも同じお考えですか。

Amp マルティン・シュタイン

はい、同じです。そうですね。

先注会・松谷

結構です。法人ウェブサイトを作らない理由は。日本法人のですよ。

Amp 長谷部

これも作りたい会社は作ればいいし、作る必要がないというか、そこまで手が回らないとか色々あると思いますけど。

先注会・松谷

マルティンさんも同じ考え？

Amp マルティン・シュタイン

我々の本社の WEB サイトがあって、その中で Amp 株式会社、日本のビジネスに関しては日本語もあって、そこでもありますので、本社の Amp のグローバルの考え方が 1 つの WEB サイトにまとめたいたいというのがあったので。そういう理由で。

先注会・松谷

AmpEnergy の会社は英語で書かれていますよね。基本的に。

Amp マルティン・シュタイン

日本語もついています。

先注会・松谷

全部全訳ついていますか。ホームページに日本語は。

Amp マルティン・シュタイン

私の理解だと Translation ツールがあって、それを押していただくと日本語になるっていう理解ですね。

先注会・松谷

じゃあ皆さん後で確認してみてください。Amp 社は日本事業を始めたのが 2016 年。それから従業員数はどのように増減していききましたか。

Amp マルティン・シュタイン

もちろん立ち上がったときは数人でして、今は約 30 人になります。

先注会・松谷

立ち上がった時が数人、今は 30 人。

Amp マルティン・シュタイン

そうですね。立ち上がったとき私はいなかったので、ちょっと 100 パーセントかはわかりませんが、数人だと思います。

先注会・松谷

日本事業代表者も知らない従業員の数。始まった時の、

Amp マルティン・シュタイン

いや、話した通り、その代表者が、カナダの本社の代表者だったので。

先注会・松谷

その時もシュタインさん社員ですよ。2016 年のとき。

Amp マルティン・シュタイン

私はまだ。来てなかったですね。

先注会・松谷

Amp 社のいわゆる環境とか社会とか企業統治に関するポリシーってなんですか。

Amp マルティン・シュタイン

この、いまよく言われるこの ESG ポリシー、特に Enviroment に関してはすごく我々が数年前から本社も我々も含めてすごくあって、そこはやっぱり我々の仕事の数で、WEB サイトに行っていたら。

先注会・松谷

日本です、日本に。じゃあ、Amp 社の ESG の専門担当者、日本法人に何名いますか。

Amp マルティン・シュタイン

基本的に本社にそういう部がいて、我々がそれに従ってやっていますけれども。

先注会・松谷

わかりました。今、現時点では専門担当者は日本法人にはいないんですね。

Amp マルティン・シュタイン

フルフル 100 パーセントそれだけをやっている社員がいないけれども、コンサルと、それもその 100 パーセントの社員の半分ぐらいが今でもいます。今からもっと入れようとしています。

先注会・松谷

今いないから今後もしない、そういうことですね。

Amp マルティン・シュタイン

今いないじゃなくて、本社の部と我々はコンサルベースで使ったり、社員のフルフルではないけど、半分ぐらいはいます。

先注会・松谷

本社に聞かないと、コンサル受けないとわからない。独立して日本の中で担当している ESG 専門担当者はいない？

Amp マルティン・シュタイン

多分、言葉は違うけれども、はい、そうですね。繰り返しになっちゃうんですけども、我々は本当に ESG 事業、特に大きな仕事とっていて、本社と我々一緒に非常に ESG に関してしっかりやっている理解です。

先注会・松谷

じゃあ、人権、安全、事故防止などの専門担当者もいない？全部本社に色々確認したり、コンサル？

Amp 長谷部

なのでそれを専属に見ているっていう人間はいないですけども、各担当の人間、例えば鈴木なんかもそうですけど、工事を担当していますし、工事の人間で ESG に関することは鈴木が見てたりとか、前回来ていた上司の谷口が責任を取ったりですとか、法律に関することに関しましては私が直接見たりですとか、そういった風に ESG の担当者という風には置いていませんけれども、各人で分担しながらきちんと責任を果たすという体制は取っております。

先注会・松谷

はい、結構です。ですから、今いる鈴木さんと長谷部さんが全てってことですね。この

ESG とか人権、安全、事故防止とね。他にもいるけど、先達山に関しては担当者ってことですね。この部分に関してもね。今も同じようにこの担当だけじゃなくて、当事案件ごとにですね、手広くされているんで、地域社会との連携責任者っていうのは決まっていますか。これはシュタインさんにご質問です。投資案件ごとに地域社会との連携責任者っていうのを決めていますか。

Amp マルティン・シュタイン

これは鈴木さん。その案件に関して、プロジェクトに関して、いわゆるメジャーが1人1人ついて行って、そちらになります。

先注会・松谷

わかりました。鈴木さんは何人目の担当者ですか。地元対応として。

Amp 鈴木

ちょっと聞き取りづらかったんで、もう1回お願いできますか。

先注会・松谷

先達山の担当者は鈴木氏で何人目ですか。

Amp 鈴木

4人目です。

先注会・松谷

地域社会との連携責任者が4年間で4人。

参加者

毎年変わるんだ。

先注会・松谷

そういうことです。そういうことですね。最近、ESG、人権、安全配慮について社内研修を行われましたか。シュタインさん。

Amp マルティン・シュタイン

はい、それは前もお話しました通り、そのESGのポリシーが細かくありまして、そこは日本に関しても、新しい社員が入った時とそのポリシーを出した時、皆さんにはそれは伝えてます。

先注会・松谷

今まで、こういった先達山に関して色々住民から不安の声が上がって、そういった ESG 担当者もいらっしゃるわけですから。問題だなと。計画見直し、考えたことありますか。

Amp マルティン・シュタイン

あると思います。はい。

先注会・松谷

具体的にどんな見直しがされたんですか。

Amp 鈴木

えっと具体的なお話ですので、去年の。

先注会・松谷

ごめんなさい、具体的な話をシュタインさんはわからないから今、鈴木さんにお任せするわけですか。この計画見直しについて。

Amp 鈴木

はい、詳細にお話したいと思って。

先注会・松谷

いや、まずちょっと聞きますけど、シュタインさんからは具体的な計画見直しのお話は。

Amp マルティン・シュタイン

いや、ありますけれども。

Amp 鈴木

私が話した方が皆さんに伝わるのかなと思って。

先注会・松谷

いや、まずフォローしていただいた方がいいと思いますよ。トップに喋っていただいて、それをフォローするのが部下の仕事じゃないですか。

Amp 鈴木

去年の3月ぐらいからですかね。

先注会・松谷

だからシュタインさんです。シュタインさんがまずしゃべってからやりましょうって。

Amp マルティン・シュタイン

私ができますけど、エンジニアとかそのプロジェクトのマネジメントをやっている人間ではなくて、より、なんていうか、もちろんそうですね、会社の中で私は全部でやっているわけじゃなくって、それは役割分担当然ありますので。

先注会・松谷

いいです。じゃあ鈴木さん、簡単に、あんまり長くここで見直し計画全部話さなくていいんで、簡単をお願いします。

Amp 鈴木

去年の3月ぐらいからですね、市民の方や市役所、県の方に、景観に関する苦情、クレームが非常に多かったということを直接的、間接的に伺っていましたので、これに関してですね、どのようにしたら景観を早く回復することができるのだろうかということを社内及び工事業者と協議した上で、ちょっと前お話したことですけども、本来、緑化の工事というのは工事完成してから行おうという予定だったものを前倒しして行っているということで、景観の回復を図ろうということを決めて実行しております。

先注会・松谷

計画見直してっていうか、計画と全く異なる、予定と違う景観出現させてしまったのでなんとか隠そうと緑化するっていうのが、今おっしゃった計画見直してっていうんですね。全体的な見直しじゃないですけどね、単に緑化しないといけない状況に追い込まれたと。

Amp 鈴木

許認可の中で許される範囲でできることをやっております。

先注会・松谷

結構です。今日晴れてて。意外に雨降ると思ったらね。これ見えますね、シュタインさんも。私達の近くの学校からの、こういう風景です。これはですね、近所の方が1番綺麗な景色だから、展望ベンチっていうのを置いてですね、ここに一人座して将来展望を考えるもよし。となったところの前に、こういうものができたんですね。で、これは昨日の我が家近くからの風景です。雪うさぎってシュタインさんご存知ですか。

Amp マルティン・シュタイン

本当に今でも皆さんとこういう風に話していて、できるだけ皆さんが、なんて言うんすか。できるだけよくして、今日もそんな風にお話は。

先注会・松谷

毎週報告受けていたけど、福島市民がいう雪うさぎとか聞いたことなかったですね。結構です。で、これは Amp 社が提出した景観予測ですね。この赤いところしか見えないってはずだったんです。で、この下まで完全に切り取られていますね。これほとんど見えませんよって話でした。で、森林審議会というその県庁が許可したっていう時にはですね、事業者の人が、場所によっては見える箇所から薄くすっとラインが入っているようなイメージでございまして、こういう話されてましたね。この薄くすっとラインという発言は、御社の社員、Amp の社員がされていますか。

Amp マルティン・シュタイン

はい、そうです。

先注会・松谷

はい。この発言について、現在、法人代表として正しかったと考えますか。

Amp マルティン・シュタイン

はい、我々も前からはいい。元々のイメージにできるだけ近づけるために、今。

先注会・松谷

いや、正しかったか。現在、振り返って正しかったと考えますか。

参加者

あれがすっとラインかって。

先注会・松谷

いや、これは鈴木さんの話はもう何回も聞いたんで結構です。シュタインさんは法人代表として正しかった？

Amp 鈴木

ちょっといいですか。先生。

Amp マルティン・シュタイン

多分ここは異種的な話が多分ある。何が正しいとかという判断が多分あるので。

先注会・松谷

いいです。もうこれでいいでしょ。この景観予測を出した会社はどこで、この会社に、なんかこれ違ってたよって責任問い正したことってありますか。

Amp マルティン・シュタイン

そうですね、本当にここは、これ、予測です。それは。

先注会・松谷

だからこれ間違っていますねと。このデータとかこの写真送ってきたら。業者にやらせているわけですよね、誰かに。自分でやらないで。でも結果的にこれ全然違ってたと、だから、こんな予測してきた会社に対してひどかったよって、なんか責任を追求したことってありますか。

Amp マルティン・シュタイン

ないです。

先注会・松谷

はい、わかりました。これ、福島市長は過少申告、私たちは虚偽だと思っていますけど、シュタインさんはこれ正しいって思っているんですか。やっぱりこの景観予測は。

Amp マルティン・シュタイン

そう、正しいかどうか。はい、多分それは。どっちでもない。

参加者

どっちですか。

先注会・松谷

正しい？

Amp 鈴木

どちらでもないです。（と答えてくださいとマルティン・シュタインに耳打ち）

先注会・松谷

いいでしょう。もしシュタインさんがさっきチェコのご出身っておっしゃって、山が、ど

ういうのがあるか存じ上げないんですけど、故郷の山、傷付けられたらどんな気持ちになりますか。

Amp マルティン・シュタイン

そうですね、我々、ほんとに、クリーンエネルギーの、どちらかというと、我々も将来のためやっているから、あんまり。うん、はい。仕事ちゃんとやっているという理解。

先注会・松谷

再エネのためなら、自分の故郷の山は傷つけられても OK ですか。

Amp マルティン・シュタイン

はい、そう思いますけれども、それは、本当に 100 パーセントは比べられないと思いますし。

参加者

人の国だからいいんでしょ。

Amp マルティン・シュタイン

それは全くございません。

先注会・松谷

ちょっと次行きます。ちょっと休みさせてください。

先注会・梅宮

梅宮の方から、反射のシミュレーションについて少しお聞きしたいんですけども、これ、太陽光パネルがですね、非常に眩しい状況になっています。おそらく景観予測であったり事業開始前の予測ではこういうことにはならないというようなお話だったんじゃないかなと思うんですが、これ、住民の方々から、いろんなところから写真を撮ってきて、眩しいというものが来ています。先日、4月30日に私共、先達山の方にお伺いしまして、ある住民の方がですね、高湯街道、道路ですね、走っていると眩しくて、運転に支障が出るぐらいまいいんですよと仰っていました。ただ、鈴木さんのお話ですと、当然ながらシミュレーションをされていて、そうはならないだろうということを事前に予測されているんでしょうけど、そういう結論は得られていなくて、ちょっとここ、私意味がわかんなかったんですが、それは反射しているんじゃないかと、光って見えるんだと思うと。それを反射と言うんじゃないのかなと私は思うんですが。二回に分けて聞いてて、それ繋げていきますけど、私たちは考えている限り反射はしてないと。再検証、リテストしないんですか。と聞いた

ら、それはしませんっていうことをおっしゃっていたんです。ただ、そもそもシミュレーションの考え方違うんじゃないかなと思っていて。シミュレーションって、事前評価をして、改善するための活動を、そこを効率化するようなものだと思うんですね。予測結果に固執して、私たちの意見は正しいから何もしないではなくて、やった結果、住民の方々からそういった意見が出ているんだから、もう一度検証しなきゃいけないものなんじゃないかなと思うんですが。

Amp 鈴木

すいません、これに関してはですね、もう 1 回やっています。

Amp 長谷部

要は、シミュレーションして、結果が違ってそうであれば再度シミュレーションするなり対応するなりはちゃんと考えています。

先注会・梅宮

結果は。その結果はもう出ているんですか。

Amp 鈴木

結果はまだ出てないです。

先注会・梅宮

それはどのようなポイントで実施されたんでしょう。住民の方からここ眩しいよみたいなご意見が届いていましたか。

Amp 鈴木

これは外部の専門の業者にですね、委託をする形で、今現状のパネルの設置状況ですね。予測ではなくて、設置状況を、断面の形とかパネルの形状とか含めて、現状の状態でどの程度市内に反射というか照射されるのかっていうことを検証するように協議をしています。はい。

先注会・梅宮

どこに問題があったのかはわかりません。もしかしたら発注仕様からして間違っているのかも知れない。発注仕様は正しいかもしれないけど、施工が間違っているかも知れない。角度が間違っているのかも知れない、お互い正しいんだけど、何かしら予測外のことが起きているかも知れない。そういった情報を私達にいただかないと、先ほどの方も、運転に支障が出るって非常に怖いと思うんですが、これはどのように広報される予定でしょうか。

Amp 鈴木

運転に支障が出るというその場面の再現も含めて、特に高湯街道を上がっていく時とかフルーツラインとか、その辺で実際に検証しようということで協議をしまして、それはどの時期、どの時間、あとはどこの部分がついていうところは細かく打ち合わせはしております。

先注会・梅宮

元々のおっしゃっていた反射しないというところから反射してしまうということになった。俯角って言うんですよね。上から来た光が下に来るという、俯角が本当に生じているとしたら、これ、パネル敷き直しするんですか。

Amp 鈴木

パネルを敷き直すという判断をする前にですね。30 日にもお話をちょっとしたかと思うんですけども、基本的に南を向いているパネルというのは、太陽から光を浴びた光の反射は空中に逃げるというのは基本です。それはなぜかというと、太陽は基本的に南側に登るんですね。南から角度が当てられた、パネルに対して光の反射というのは、もう一度重複しますが、空中に逃げます。これが逆に北側傾斜、よく住宅の屋根でも北側に太陽光パネルを搭載している家なんかがあるんですけども、これは実はもろに、北側の隣の家の例えば 2 階の窓から部屋の中に光が、反射が差し込むっていうのは、これは過去の裁判の判例などでも確認されています。今回、現場では基本的には南側を向いて設置されている関係で、先ほどの予測のシミュレーションの場合でも、市街地、今標高が低いところです、現場より。光の反射がしないという結果が得られておりましたので、先ほどのこちらの画面に出ていたこの予測になっているんですけども、実際に反射するという意見を 1 番早いタイミングでは、そうですね、去年の 11 月ぐらいにいただいて、そこから検証し始めております。ただ、パネルの実際の設置がその 11 月の時点ではまだ非常に少なかったので、今大体 50 パーセントぐらいのパネル敷設が完了したっていうところで、これがどういう風に照射されるのか、反射されるのか、実際どうなのかっていうところは検証をしている最中でございます。

先注会・梅宮

もう 1 度同じ質問するんですが、どのように私たちはその情報を見られるでしょう。どこに載せますか。

Amp 鈴木

その点に関してはまだ決定しておりませんが、決定しましたらご連絡差し上げるよ

うにしたいと思います。

先注会・梅宮

ホームページで見たいですね。

先注会・松谷

戻ります。ちょっと休んだんで、はっきり言って私たちは、これは先達山って結局のところですね、発電事業による利益獲得が1番の目的だと感じます、いろんなところで。これに対して長谷部さんの方から、我々は地球のために再生可能エネルギーを普及して貢献しているんだと。さらにですね、この開発によって土砂災害のリスクも下がるんだと、返って。こういうことをおっしゃっていますね。これシュタインさんもこの立場なんですね。

Amp マルティン・シュタイン

はい、同じです。はい、その通り。

先注会・松谷

ではですね、この土砂災害のリスクが下がる理由ってというのはなぜですか。

Amp マルティン・シュタイン

それは、調整池を作っている点で。

先注会・松谷

調整の池を作ってそこに溜めるからより安全になるという話だそうなので、後でその話は聞きましょう。AmpEnergyの方は、先達山はこういう形で、英語で国際的に発信してるわけです。でも、これって結局のところ、投資すると儲かるよってという宣伝として取り上げているという風に思うんですね。基本的にやはりこういった先達山とかいろんな宣伝するのってというのは、環境改善に役立ってるっていうことをね、福島環境改善に役立ってるっていうことを言いたいんじゃないくて、投資家とか株主にね、これ儲かる案件でやってますよって、結局そういうことをアピールしたいのかなっていう風に思ってしまうんですけど、どうなんですか。なぜ先達山とかそんなに宣伝するんですか。

Amp マルティン・シュタイン

それはなくて、もちろん会社としては、どの会社でもやっぱりコストがあるし、売り上げが必要になってくるけれども、それだけではないですね。

先注会・松谷

でも、投資家、株主にやっぱアピールしたいんですよね。こういった大型案件手がけてますっていうことで。

Amp マルティン・シュタイン

アピールっていうより、情報シェアっていう考え方でした。

先注会・松谷

情報のシェアって、私はアピールの1つのやり方だと思いますけど。これはAmp社の宣伝です（動画上映）。これシュタインさんも出てくるんですけど。株主価値の向上っていうのを全力尽くす会社で、自分たちも社員として、株、自分の会社の持ってるし、やっぱりなんか環境の話っていうより、こういうところが最初に強調されたなっていうのが参考までにご紹介で、かつ、その再エネのために、色々と日本のために福島のために貢献されるっておっしゃって、最近、さらに、このAmpEnergyは、SMBCとですね、このバンブーネクストっていうタイの企業から200億円くらい集めて開発中のですね、アセット、財産に投資すると、日本で。財産ってなんのことかって、メガソーラーとかそういうのですよ、自分たちに投資します、こういうことをホームページで大きくやっています。当然、投資会社ですから、何か悪いことをしているとは言いませんが、会社ってこういう目的としている会社で、儲かったらさらにお金集めて、さらにメガソーラー作るっていうことをされているわけですよね。つい数日前の日経に、今度、北海道の士別市っていうところで、北海道最大のメガソーラー作るってわけですから、次々にあちこちでお金集めて投資する。結局それが全て、この再エネの普及で二酸化炭素減るとかですね、目標達成しているっていうことで進んでいるんだらうなと私たちは理解しています。それはいいんですけど、実際に環境破壊甚だしいと私は感じるので、AmpEnergy本社に問い合わせを何度も送っています。これに対して一切AmpEnergyは返事してきません。こういったグローバル企業がですよ。顧客窓口とかカスタマー窓口、メールも公開している。ここに送っても来ない。さらに私、前回の3月13日のときに長谷部さんにカナダ大使館にもちゃんとAmpEnergyに勧告してくださいと言ったらですね、読む必要ないですよね。シュタインさんこの件ご存知ですか。

Amp マルティン・シュタイン

知りません。

先注会・松谷

これがカナダ大使館の答え。ですから、長谷部さんにこれお願いしていますが、一切やってくれなかった。シュタインさんがこのこと知らない。おかしくないですか、この会社。

Amp 長谷部

皆さんもわかると思うんですけど、例えばカナダの人から急に E メール飛んできてどう思いますか。答えようと思いますか。

参加者

ん？

Amp 長谷部

自分のアドレスに急にあなたの身について質問がありますとか言ってメール来たらどう思いますか。

参加者

答えるべきですよ。

先注会・松谷

長谷部さん。長谷部さん、私がコンタクトしたのは、AmpEnergy のこの、E メールアドレスに、General Information とか、メディアとか、どこやっても来ないから。こんなグローバル企業がこういったカスタマーとか連絡一切対応しないんで、カナダ大使館に聞いてみたんですよ。お宅に本社を置いている会社が福島でやっている事業で、非常に問題が多いんでお話ししたいんですけどと言ったら、カナダ大使館はわかったと。ただし、これ英語読めるでしょ。自分はプライバシーコンストレーションがあるから直接は言えないけど、カナダの AmpEnergy にはすでにコンタクトして、ちゃんと私に返事返すように言ったって書いてある。それでも動いてない。それで、3 月 13 日にもこのことを指摘したんですけど、このことを上司にもレポートしてないんですね。

Amp 長谷部

だから、カナダの本社がこれは担当する話ですので、我々日本の法人ですから、日本の法人に文句言われましても、カナダの本社に文句言ってくださいとしか言いようがないです。

先注会・松谷

じゃあシュタインさんは今のこの件、そのままでいいんですか。要するに本社に直接言ってくれと自分達関係ないって長谷部さんおっしゃったんですよ。

Amp 長谷部

関係ないっていうか。我々お答えできる立場にないので。

先注会・松谷

だから、連絡つないでくださいって言っているだけですよ。

Amp 長谷部

本社に。本社に聞いているなら本社が答える話なので、本社が答えるか答えないかをこっちに聞かれても分からないですよ。

先注会・松谷

だから長谷部さんに言ったって分からないのはこっち分かっている。だから、本社と話したいから、せめて連絡つなぎぐらいできるでしょって話です。

参加者

したくないの？

Amp 長谷部

したくないんじゃないくて、本社が回答するかどうか私知らないですから。私が回答できるんだったら、私回答します。

先注会・松谷

あなたに聞いてんじゃないくて、直接話すから連絡繋いでって言っているだけです。

Amp 長谷部

いや、だから、それで連絡するかどうかを決めるのは本社の人なんで。

参加者

おかしいでしょ。

先注会・松谷

だから無視しているんですね。逆に本社は無視していると。

Amp 長谷部

本社が回答してないのかは知らない。回答してないんですよ。だからそれはそれでそういうことだ。だから本社はそう判断するっていうだけじゃないですか。

先注会・松谷

シュタインさん、あなたはね、カナダの本社にもいたことあるし、そこから日本に来てい

るし、自分が取締役会の1人として色々話すわけじゃないですか。周りの取締役と抗弁できてる本社の人ですよ。どう思います。こういうこと。

Amp マルティン・シュタイン

私も本社の代表ではないので、社員でもないで決めるところではないんですね。

参加者

お願いしてくれって言ってるの。

Amp マルティン・シュタイン

それを決めるのは本社の人間。

先注会・松谷

連絡も返さない本社についてどう思いますか。住民と話すのをなぜ避けていると思いますか。

Amp マルティン・シュタイン

そこは。いや、すいません。わからないのが正直。

参加者

バカにしてるからでしょ。

Amp マルティン・シュタイン

いや、はい。そこは。

先注会・松谷

じゃあ今度、今日これから帰って本社と連絡して、私達と直接話すように言っていただけますか。

Amp マルティン・シュタイン

繰り返しになるんですけど、そこはもう AmpEnergy の会社が決める話ですので、私がそういうのはできない。我々が決めるところではない。

先注会・松谷

結局、独立した日本の株式会社の取締役社長って言っても、カナダに聞かないと住民と連絡していいかどうかとか、そんなことも決められない代表ですか。

Amp マルティン・シュタイン

違います。今の話は Amp 株式会社の話ではなく、Amp カナダの会社の話。そこは当然私も他の株式会社の社員も決めることはできない。

先注会・松谷

はっきり言って。だから、この連絡、住民が AmpEnergy と取ろうとしてることを助けたい。是非会って直接話した方がいいなって。手伝うつもりないってことですね。

Amp マルティン・シュタイン

いやもうすいません。繰り返しなんですけど、したくてもそういう、ここで決めるのはできないので、向こう。

先注会・松谷

No ね？No ですね？私たちがコンタクト取ることを助けるつもりあるか。簡単なことですよ。ていうかね、じゃ、聞きますね。先ほど、ESG とか人権の問題に関してね、カナダ本社のコンサル入れているっておっしゃいましたよね。もう密にカナダから、いつもコンサルで、ESG 問題話し合ってるって、さっきお認めになったじゃないですか。そうやって自分たちはカナダ本社と密に取ってて、住民が話そうとすると、いや、それ知りませんって、そんな回答はありえますか。

Amp マルティン・シュタイン

知りませんは、言ってないですけど、決めるはできないので。でも、それをその会社に使ってというのはもちろんできますけれども、決めるはできません。

先注会・松谷

決めるじゃなくて。じゃあ繋げてくれるんですね。

Amp 長谷部

ごめんなさい。そもそもの前提として、松谷さん個人が本社とコンタクトを取りたいだけなのに、なんで我々が手伝わないと？手伝う理由がない。

参加者

誠意がないよ。

Amp 長谷部

手伝うのが当たり前だみたいな話。

参加者

当たり前でしょ。

Amp 長谷部

だから本社と連絡取ればいいだけの話なのに、それをなんで我々だって。いや、別に手伝わないって言ってないですよ。手伝っていますし。

参加者

こんなに迷惑かけて。そのくらいやってください。

Amp 長谷部

いやだから、なんでやらなきゃいけないのかが分からない。

参加者

やる気がない？

Amp 長谷部

もうやってますけど。

参加者

やってない。やんないんでしょ。取りつがないって言ったでしょ。取り次ぎますならいいです。

Amp 長谷部

取り次ぎました、私は。はい、前回言われたのでやりましたよ。それで、その後に本社が答えてないだけなんですよね。だから、それを、だから松谷さん、コンタクト取れないとか色々あってカナダ大使館にも言ってますし、我々もやってますが、結局本社が答えてないだけなので、それは我々に言われてもしょうがないじゃないですか。だから、本社がどのように判断したかもわからないので。

先注会・松谷

後でまた2時間たっぷり、ありますから。ちょっとまた後半あるんで。次、色々聞きたいことあるんです。整理しますが、要はだから、こういうことです。逆に今ね、長谷部さんがコンタクトしたけど答えてくれない、っていう返事すら私にはしていませんよ。こう、

試みたけど、返事ももらえなかったんです。なんてことも報告は一切ないです。本当にあっという間に時間過ぎちゃったんで、これはシュタインさんに質問ですね。色々あるんですけど、福島住民についてですね、どの程度ご存じなのかなっていうことを知りたいんです。福島の原発の被災状況とかですね、福島のこの原発被害で、福島についてどういうことを知っているかとか、なんか、そういった福島についてのなんか思いとか理解についてちょっとお話しください。

Amp マルティン・シュタイン

私も 2011 年の 3 月 11 日に日本にいますし、もちろん福島住民ではないし、福島みたいに大変な影響は出てないけれども、日本にもその時もありますし、非常に重く感じています。私も本当に、個人としても。本当になんですか。個人的な考えだったらもう。重く感じています。

先注会・松谷

3.11 後に福島市ってどういう状況になってたんですか。ご存知のこと、3.11 の原発後の福島市ですよ。この市内はどんな感じでした。

Amp マルティン・シュタイン

震災でダメージ受けていると。

先注会・松谷

震災、原発事故で、福島市ってどういう影響を受けたんですか。

Amp マルティン・シュタイン

皆さんが自分の家から出ないといけないとか、避難生活とか。

先注会・松谷

避難して戻ってくると、山あると、ふるさと帰ってきたなと思うんです。福島県内で最初に手がけた投資案件、福島に進出した理由はなんですか。

Amp マルティン・シュタイン

福島ソーラーパークかという案件がありまして、東の方ですね、はい、そこが 1 番目です。

先注会・松谷

それはどうして福島のあるそこに関心持ったんですか。

Amp マルティン・シュタイン

これは我々に言われてもあれですけど、若干その時は震災も原発のもあって、できれば福島でやりたいっていう思いは多分あったけども、それだけではなくて、あまりそうなんか言われても、福島人間じゃない私にはそう言われても。

先注会・松谷

いえいえ、ありがたいですよ。福島を助けたかった。

Amp マルティン・シュタイン

いやそれは失礼な言い方になる。

先注会・松谷

いやいや、そんなことない。いや、嬉しいです福島の何かエネルギー、原発に代わるなんか再エネで助けたいって思った、そういうことですか。

Amp マルティン・シュタイン

そういう風にいうとちょっと失礼かと。

先注会・松谷

そうでもない、意外に遠慮深いですけど。いや、いいことだと思います。ソーラーパーク、これですね、福島市の東の方にあるあれです。前回来た方はね、ご紹介しましたが。これ自分で開発されたんですか、福島を助けるために。

Amp マルティン・シュタイン

これはですね。完成渡しで、我々が作っておりません。開発はしていません。

先注会・松谷

はい、わかりました。だから、福島助けるためとか言う気持ち若干あったかもしれないけど、別に作って助けるんじゃないなくて、もう作ってあるものを買ったってことですよね。

Amp マルティン・シュタイン

はい。こういう話であるので、あまりそういう言い方はしたくないと。

先注会・松谷

ここね、じょーもびあって、脇に縄文遺跡あって、公園なんですよ。だから縄文の風土壌れちゃうなと思って。これ聞いたんです、長谷部さんに。そしたら自分たちは購入しただ

けなんで、なんかね、周辺環境なんて知らないよと。

Amp 長谷部

知らないよというか、開発をしてない。だから、もう出来上がった発電所を我々買っただけですので、出来上がる前に作った会社がどのような形で調査なり、開発の許可を取ったなり、その辺のこと、詳しいことは分からない。

先注会・松谷

買ったから関係ないっていう話は、じゃあ、買うまでには、現場にも 1 回も行っていないし、視察もしていないということですか。

Amp 長谷部

いえ物を買う時は物見ないで、家とか物件とかでもそうですけど、物見ないで買う人は多分いないと思いますので、ものはちゃんと見てますよ。

先注会・松谷

じゃあ、その時にもう出来上がっているこういう大きいメガソーラー見て、これいいな、買いだなって思ったとこですね。

Amp 長谷部

その諸々の条件で。正確に言うと、ここにいる 3 人が当時、その案件を獲得した当初いませんで、その当時、どのような判断で、その案件に投資するって決めたのか分からないですけども。

先注会・松谷

これを、福島市の先達山を売り込むっていうか、福島市の住民説明会の時に、このじょーもぴあのソーラーパークを、保有している施設ですよって、さっきの宣伝みたいに、私たち福島で保有していますよって宣伝されていますね。でも、その後に転売したんですよ、もう。

Amp 長谷部

福島でどういう実績がありますと、先達山を説明をする時に、福島県で別にこういった案件を取り組んでいますという趣旨で紹介をしておりますけど。

先注会・松谷

今この会社に転売したんですよ。前回お認めになった通り。

Amp 長谷部

だから、もうその発電所は売却はしてますね。

<動画上映>

===ここから===

ナレーション

福島市の中心部から車で 25 分。山肌に現れたのは、巨大な太陽光発電所。広さは東京ドーム 4 個分で、6000 世帯に電力を供給しています。そこに現れたのは、マルティン・シュタインさん。カナダの再エネ発電会社 Amp の日本事業の責任者です。Amp は 2009 年に創業。アメリカをはじめ世界 8 カ国で事業を展開しています。Amp が日本に参入したのは 5 年前。国から認可を受けた他の業者の用地を買収し、現在、国内 4 カ所でメガソーラーを運転しています。Amp の背後にいるのが、27 兆円の資金を運用する世界最大級の投資ファンド、カーライルグループ。今年 1 月、Amp はカーライルからおよそ 400 億円の出資を受け、日本での事業拡大を狙います。

Amp マルティン・シュタイン

「日本は巨大な電力市場ですから、我々はここに来たのです。FIT 制度の後押しもあって、日本に巨額の投資ができました。」

ナレーション

2011 年 3 月、福島第一原子力発電所の事故後、再生可能エネルギー普及の起爆剤として導入されたのが固定価格買い取り制度。

===ここまで===

先注会・松谷

まあ、ですから巨大な電力市場で巨額な投資に見合うリターンが得られるところだから我々は来たんですよ。ですから、福島が別に原発事故とか再エネで福島で助けたいとかっていうよりも、そもそも電力事業が FIT 制度の後押しで儲かるから、巨大な投資に見合うリターンが得られると思って、海外のお金をたくさん集めてきて、我々は日本にやってきたっていう風におっしゃってますよね。インタビューで。

Amp マルティン・シュタイン

もちろん、すいません、会社としてはリターンがないといけませんし、それはそうですけども、それだけではなく、ミッションが当然あります。

先注会・松谷

ミッションはなんですか。

Amp マルティン・シュタイン

クリーンエネルギー、いろんなエネルギーを作る。風力、ソーラー、蓄電池、の運用をする。そのために我々の事業があります。

先注会・松谷

福島ソーラーパーク売却した事実を周辺の住民に伝えたことありますかと聞いたら、法令に従って必要とされる対応を行っております、と長谷部さん答えていますが、法令に従って必要とした対応ってというのは具体的に何されたってことですか。

Amp 長谷部

発電所の譲渡になりますので、譲渡に必要な手続きありますので、その手続きを取ったと、それだけの話。

先注会・松谷

だから、その手続きには住民に説明するっていうのも入ってなかったからしなかった。

Amp 長谷部

だから入っていたことに関してはやっていますし、入っていないことに関してはやっていない。

先注会・松谷

入ってなかったんでやってなかったんですよね。

Amp 長谷部

だから、書いてあることをやればいいって言ってあるんで。

先注会・松谷

いいんですよ、そんな言葉別に変えなくても。法令に従って求められたらやるけど、求められてなかったから住民には通知していませんっていう事実は別にいいじゃないですか。

Amp 長谷部

いや、いいですけど、なんか法令に従って、書いてないことをやらないのがおかしいみたいな言い方されるので、その考え方がおかしいと。

先注会・松谷

いや、ただ聞いているだけですけど。法令に書いてなかったから、住民には丁寧に説明しなかった。

Amp 長谷部

だって、法令はやれって言ってないことを何でやらないといけないのか。

先注会・松谷

ですから住民が知らなかったっていうのは、法令で求められてないと。先達山の将来がなんとなく見えた。

Amp 長谷部

法令に書いてあることをやってなくて怒られるのはわかるんです。ただ、法令に書いてないことをやってないから怒られるのはよくわからない。

参加者

いや、誠意がないんです。

先注会・松谷

いいです。売却された後にじゃあホームページから消したらいいじゃないですか。

Amp 長谷部

これは本社のホームページなんで、これは本社に言っときます。

先注会・松谷

こういうときは本社に言ってすぐ対応してくれるんですか。

Amp 長谷部

前回のメールでも言ってます。

Amp マルティン・シュタイン

マルティンさんの前任が、これは前回のときに否定されていましたが、京都で舞鶴のバイオマス発電所を作ってる時に、京都の新聞でこういう報道がなされた。何か反社会勢力と繋がりあるんじゃないかと。その後、この人がその事業を離れて Amp 社に転職して、先達山の開発申請した時の日本事業代表者は笠松純氏だったんですよね。でも、これは誤

報だっていう風におっしゃったんで、誤報だとして、じゃあどうやって笠松氏って選ばれたんですかと。そしたら公募ですと。公募ってどういう理由で。だってシュタインさんとかね、初めにいくらでも再エネ事業を本社でやっていた方いらっしゃったのに、なんでこの方選ばれたのかなって。どういう理由だったんですかね。

Amp マルティン・シュタイン

そこは、すいません、お答えできないです。私もいないですし。選ばれたのは Amp カナダが選んだので。

先注会・松谷

それも本社の責任だからよくわかんない？

Amp マルティン・シュタイン

いや、そうではなく、私はいないですし、その時誰もいないんですけど。

先注会・松谷

いなくても、法人は続いているんですよ。その法人の代表としてそのポジション継承されているんですよ。前任者は自分がいなかったから終わりかって。それ普通の企業ですか。

Amp マルティン・シュタイン

いや、私はすいません。それに対してできるものってありません。

先注会・松谷

いや、だから全く知らないまま受け継いで後任になれる会社なんですね。舞鶴でバイオマス発電所は住民からの強力な反対にあってですね。事業中止決断に追い込まれた。報道によっては住民が撃退とまで書かれています。反発を受けてですね、なんで撤退したんですかと、反省すべき点がありますかって聞いたんですが、別に住民が反対したからやめたわけではないと。一要因ではある。じゃあ、他の要因とか何がまずかったんですか。これ、シュタインさんが法人代表になられてからじゃないんですか。

Amp マルティン・シュタイン

この案件が非常に難しくて、これちょっと細かい話なんですけれども、US ドル、輸入に使うものは全部海外から買わなきゃいけないくて、ダブル事業化に近いものでして、それは非常に高いですね、メーカー、民間の。それは US ドルでやらないといけなくて、US ドルから日本円にするのはできなくて、そこが 1 番の理由として。

先注会・松谷

わかりました。住民の反対が生じたことへの反省はありますか。

Amp マルティン・シュタイン

我々はそれに関して非常に何回も話していて、他のその話してて、それは理由ではないと考えています。

先注会・松谷

お答えになってないです。何がまずかったから住民の反対が起きたっていう風にお考えなんでしょうか。

Amp マルティン・シュタイン

あそこはですね、多分。具体的に何をするかちょっと。

先注会・松谷

いや、ですから、いい仕事してるわけじゃないですか。地球環境のために再エネ普及されて、それで住民が反対している舞鶴で。なぜですか。なぜそういう反対が起きちゃったのかなっていう風にシュタインさんにお聞きしたいんです。代表だから。いや、まず長谷部さんの前に。

Amp 長谷部

いや、別に反対する人は反対するので。我々がどうしてもが反対ってお考えの方は反対するので。我々の努力で反対を防ぐって立場にはないんですけど、質問自体が間違っていると。

先注会・松谷

全て反対する人が。はい、反省なしっていう理解だと思います。

Amp 長谷部

そもそも質問がおかしいですね。

先注会・松谷

結構です。

Amp 長谷部

それぞれ考え方が違いますので。反対する人がいたら、それはもう反対しているんだって

うそれだけの話。

参加者

それ以外の要因って聞いているわけ。

先注会・松谷

いいです。最後。自治会で寄付された。これ、山口県の伊陸市っていうところらしいんですけど、シュタインさんが行って、自治会、町内会みたいところに、950 万円も自治会の電気代払ってあげたんですね。自治会に一気にまとめて 950 万円も電気代払うなんて、すごい不思議な地域貢献だなと思ったんですね。聞いたら、いや、夜間に危険な箇所もあるから街灯を置いた。街灯の電気代についても負担するとか、なんかそんな答えで。聞いたかったのは、なんで自治会に電気代払うのかな、あとは、お金払うぐらいだったら、住民と共同の事業やろうとかね、そういうこと考えないのかなって。地域貢献だったら。その辺りどうですか。現金バツてやることだけが地域貢献ですか。

Amp マルティン・シュタイン

ではなくて、我々はこの地域と何年か一緒にやって、住民の方々からいろんなアイデアがある中で、住民の方々からこういうのをどうですかって、我々はそれに答えてやったものです。

先注会・松谷

わかりました。住民が望むとお金を払う。福島の場合ですね、一部報道に出ているところだけで、一例だと思いますけど、ある区のところです、先達山の下の区のところに 1800 万円、一括で現金で地域貢献で払った。名目は町内会の年会費だと、これを 1800 万円も払ってくれたと、まとめて。こういうことについて、実際その県に開示した請求文書でも、各町内会にお金いくらですかとか、こういう交渉をしているわけですよ。前回お見せしたと思うんですけど、とにかく地域のところにお金をまいていると、なぜなんだろうなっていうのか不思議なんですよね。地域貢献。このこと前回いらっしゃってなかった方もいるんで、聞いてみたんですよ。

<動画上映：2025 年 3 月 13 日 Amp 社との対話会でのやり取り>

===ここから===

先注会・松谷

いろんなところでね、これ一部だけだけど、結局町内会費だ、寄付だとかって、なんで金払う必要あるの。いいことやってんでしょ。なんかこれ、やっぱ迷惑な施設で困るやつだから、こういう人に金をあちこちこうやったり、そういう必要性あってやってんですか、こ

れ。

Amp 長谷部

いや、そういうことではございません。地元協力の一環としてやってるという、それだけの話です。

松谷

地元協力。いっぱい、地元あっぺした。

Amp 長谷部

そうですね。なので、ちょっと、だからお金をお支払いしてる場所もありますし、支払ってない場所もありますけど。なので、そこでやっぱりごたごたが起きると良くないのでっていうことで開示はしておりません。

松谷

いや、金払ったからゴタゴタが起きてんじゃないんですかね。

参加者

これ、なんで黒塗りなんですか。

松谷

これは福島県側の判断で黒塗り文書で開示されたんですけどね。教えてほしいんですよ。

Amp 長谷部

いや、だから、誰がいくらもらってるかを聞いちゃいますと、やっぱりそこであいつはいくらもらってんのに何でうちはくれないんだとか、そういう話になりますよ。

松谷

いや、だから払っちゃったからね。だから、そうやって一部の人達だけね、知らないうちに払っちゃったりするから、そういう問題起きたんでね。そういういざこざが起きる原因巻いたのは、あなたたちの仕事のやり方とか同意のやり方なのよ。

Amp 長谷部

ただ地区の方と直接我々は話してますし、その中で決められた条件で合意をしておりますので、そこに関しては、なんですかね、地域ごとに説明はきちんとしておると。

===ここまで===

先注会・松谷

シュタインさん、どうですか。このお金払ったことによって、払う地域とか払わない地域とか、しかも全部秘密でやってる、どういう金額が現れたかもわからない。これが福島地域社会を分断させたり、色々と人の間の不安を招いたり、争いを起こしたり、そういうことについてどう思いますか。このお金何のため。

Amp マルティン・シュタイン

そういうのは全くなくて、我々例えば、じゃあ福島ユナイテッドのスポンサーとかやったり、岐阜のFCのサッカーチームとかスポンサーやったり、他の会社も当然いろんなところでスポンサーしてるんで。

先注会・松谷

企業のスポンサーの話は後でします。このお金、地域の町内会とかに秘密の形で、一部にはこのぐらいやったり、そういうのはなぜ

Amp マルティン・シュタイン

秘密ではなくて、我々が考えているのは、やっぱり我々はスポンサーっていう中で考え方でやっているの、秘密とかやっているのは、そういうのは全くないですね。

先注会・松谷

このお金受け取った地区の住民がみんなメガソーラーに賛成したっていう、なんかその根拠って考えてますか。

Amp マルティン・シュタイン

そういうのは本当になくて、関係ない。

先注会・松谷

だから別に、お金もらった地区の人が別に賛成してるわけではないんですよ。

Amp マルティン・シュタイン

はい、タイミングも違う。これは本当に、はい、全然そういう考えではないです。

先注会・松谷

どこに地域貢献として金銭提供したかを明かすことができない？どこの町内会に提供したか。

Amp マルティン・シュタイン

ですので、そういう考え方ではなくて、例えば、じゃあ違う会社に、なんで、どこにスポンサーしていて、このチームのスポンサーしてませんかというのはちょっと難しい。

先注会・松谷

どこの町内会にスポンサーしたか言えない。どうやってその対象地、スポンサーする対象地域、決めたんですか。

Amp マルティン・シュタイン

我々、最初から、その話し合いの中で。

先注会・松谷

誰との話し合いですか。

Amp マルティン・シュタイン

やっぱ皆さん、その地域の皆さんとか行政さんとか、その本当に始まる前の話から、例えばそういうアイデアがあれば、ぜひ我々それを受け取って、考えて。でも、それは完全にそういう話も、アイデアが。

先注会・松谷

提供したことは協定書っていうのを結んで払ってますよね。この協定書っていうのは行政当局に報告したんですか。

Amp マルティン・シュタイン

もちろんです。

先注会・松谷

しましたね。皆さん、行政に提出されたら、その協定書見たいじゃないですか。実際、鈴木さんも、その1月14日に行政に提出したと。その条件がなければ林地開発許可下りないっていう風におっしゃっている。結果、私が少なくとも福島県に請求した結果、その文書は取得していないため保有していないと。この地域町内会と交わした協定書は県は保有していないという風に答えてますけど、これは県が間違ってるんですね。

Amp 鈴木

これは多分、開示請求する件名が間違ってますね。

先注会・松谷

何て書くといいですか。AC7社の先達山での林地開発に際して、庭塚地区町内会、区長と
交わした協定書の全部。これじゃなくてなんて書けば出てきますか。

Amp 鈴木

多分、庭塚地区町内会って書いてあるから出てこないんじゃないですかね。

先注会・松谷

お金配ったとこって近くじゃないですか。あそこ。

先注会・松谷

それは、この場で、例えばどこの町内会とかっていうのは我々の方からお話しすることは
できないです。

先注会・松谷

いや、だから聞かなくていいんで、どうやったらその文章出てくるかって聞いているんで
す。

Amp 鈴木

それを言うと、開示請求して、松谷さん、またホームページに町内会の名前消さずに載せ
るじゃないですか。

先注会・松谷

だって、いいことしてんだもん。隠す必要ないじゃない。だって、地域貢献でいいことし
てるから、隠す必要ない。県民の知る権利で県に開示請求してるんですよ、全然、これイ
ンターネットに出したところで公に言うのと全く問題ない文章ですよ。

Amp 鈴木

松谷さんも報道の方も全くデリカシーがなくて。なんて言うんでしょう、松谷さんがある
町内会の名前を載ったものをそのまま自分のところに載せたっていうことで、少なからず
我々は当然協定を結んだ上で、町内とお互い合意して、協定して協力費用をお支払いして
いるんですね。ただ一方で、まずその協定をもらった側の人たちも当然合意の上でそれを
町内会費の一部として収入してるんですけども、その松谷さんの行動によって、報道の
方たちの行動によって、全然関係ないところからその人たちに問い合わせが殺到して、と
ても迷惑しているっていう事実はご存じないと思うんですけども、そういうところも私

はこの場を借りてあえてお願いしたいんです。私たちはこうやって、別に報道されても、皆さんの前で別に何言われても構いません。だけど、その地域の住民の方々の自宅とかにまで報道の方から連絡が行ったりとか、電話が行ったりとか、自宅まで訪ねられたりとか、そういうのをやっぱり増長してるんですよ。それは私、間違ってると思います。はっきり言いますけど、松谷さん。

参加者

大体間違ってるのは1000万もの額ですよ。1万くらいにしとけばよかったんです。そして問題なかったです。

Amp 鈴木

ちょっと待ってくださいね。私が言っているのは、松谷さんのこの行動は間違っていますよっていう風に言っているだけなので。別に意見欲しくないのです。以上です。

先注会・松谷

はい、こういうお答えですね。だからお金をばらまいた事実。別にばらまいたって言い方悪かったら、金銭で、だから協定書見ていかないと分からないなと思いますね。

Amp 鈴木

ばらまいたじゃないですよ。

参加者

ばらまいたでしょう。

先注会・松谷

協定書見てみないと分かんないなと思いますね。だって他のとこの地区はわかんない、ちょっと離れた隣の地区、ちょっと離れた隣の地区。どこまでね。そういう地域貢献でお金払われたのかなと思って見たら、なんかいいな、あっちにはばらまかれてると思うじゃないですか。

参加者

そうそう。

Amp 長谷部

だから地区ごとに話はしています。当然、発電所からの距離でまず近い地区から話はしていますし、影響も大きい地区ですよ。やっぱり距離が近い方が発電所の影響大きいです

ので。そういった意味で、地元で距離に応じて色々対策出てくるじゃないですか。それに
応じて地域貢献という中で、こういったことが困ってますかとか、こういった影響心配し
てますかとか、我々どんなことができますか、そういった話をずっと繰り返しやってきて、
その中で、こういった形でじゃあ地域貢献やりますねと、そのやつで全体を含めた上でお
金を協力金としてお支払いするという形にしております。なので、ただお金を払ったとか
そういうわけではなくて、地元との対話を丁寧に繰り返して、その上で我々として協力で
きることを協力していくと。その内容を協定書に結んでお金を払う地区にはお支払いして
いると。

参加者

それが 1000 万ですか。

Amp 長谷部

1000 万。いや、だから、金額はそれぞれの地区によって違います。

参加者

対象戸数はどのくらいあったんですか。

参加者 6

ただ、ちょっとごめんなさい、それぞれバラバラに質問されても答えられないので、あ
とで質疑応答の時間に質問してください。

先注会・松谷

あとで大丈夫です。今日長いんで。フジテレビほどはやりませんが、後半にも皆さんか
ら 2 時間あるんで、ちょっとお待ちください。結局、地元合意の根拠ってなんですか。こ
こに行きましょう。結局 Amp 社が、ここに地元合意があったって根拠は結局なんなん
ですか。

Amp 長谷部

地元の人とお話、地域の地区とお話をして、福島県とか福島市との協議をしまして、し
てくださってという風に言われました。その地区の人とお話をして、じゃあこの地区にも
お話をしたい方がいいんじゃないですかと言われて、そういった中で必要だという風
に言われたところの地区とお話をしております。

先注会・松谷

じゃあ、地元合意とか地元への丁寧な説明っていうのは、別に許可条件とかとは関係ない。

前の鈴木さんの話だと、これがないと開発認可はされないって言っていたんですけど、別にこれなくても開発されるんですか。どうなんですか。許可条件とされているっていう認識なんです。

Amp 長谷部

なので、これ法律上求められる要件と、法律上は求められないけど、これも持ってきてくださいって県の方が言われる要件とかありまして、そういったところで必要なところの協定書ですとか合意ですとか、そういったのはきちんと話をして合意いただいているという風になっております。

先注会・松谷

法律上で求められてないとあまりやりたくないって、さっきおっしゃったような気がするんですけど。だから、地元への丁寧な説明は条件じゃないから、法令上は求められてないっていう理解ですね。

Amp 長谷部

別に法令上求められてないからやらないなんて一言も言ってないですし、今日ここに来ているのも法令上求められてないけどちゃんと来ています。それは我々として地元の方々の意見を直接聞ける機会でもありますし、地元の声を聞きながら事業を進めていきたいという会社のポリシーがありますので、それに従ってきております。

先注会・松谷

今後とも聞いてくださいますね。

Amp 長谷部

だから意見は常にオープンで聞いていますし、どんな失礼な言い方をされようが、我々としてはきちんと対応しています。

先注会・松谷

地元の範囲ですけど、開示請求でもはっきり決まっていますよ。ここに出ていますから、公で隠すことでもなんでもない。こういうところに話そうっていうところは具体的な表現で出るんで、そんなのわかります。なんでそれ隠すのかなって。地域貢献してね、この町内会はよかったっていう風な。大体わかるんです。だからなんでそんな隠すのか不思議だなんて思います。で、あとは、さっきのね、企業スポンサーね、Ampさんはユニテッド応援していたんですね。SDGsのために、この吾妻山の描かれたとこのスポンサーの時にも、Amp社がスポンサーされているんですね。吾妻山の景色が出た。不思議だなんて思って、

実際こんな感じのイメージだったんじゃないかなと思ったんですけど、これについて聞いてみたら、デザインは関係ないと。そういうことなんですね。これはもう別におかしいなって私たちは思ったけど、これ関係ない。自分たちはスポンサーだけど、関係ないデザインなんて。

Amp 長谷部

いや、だから、サッカーチームもユニフォームを決めるのってサッカーチームですので、我々はそれに、サッカーチームにスポンサーをしてるだけですので、ユニフォームに口出しする権利がないので。なんかユニフォームに口出しできる権利があると思っていること自体がおかしいな。

先注会・松谷

分かりました。私がおかしいってことだね。SDGs だからさ、聞きたくなるじゃないですか。SDGs を推進するためのユニフォームですからね。特に気になっただけです。でも、そうやって色々と応援してくださってスポンサーやってますが、2024 年度以降はスポンサー降りていますね。なんで見直されたんですか。ユナイテッド嫌いになっちゃったんですか。

Amp 長谷部

これは、だからもうお答えしている通りで、地域貢献活動って色々ありますし、我々も予算が決められていますので。必要な我々として 1 番ベストだと考える方法の地域貢献活動をしていると。その中で当然新しくやりたいことをやろうとすれば、既存のやつを諦めなきゃいけないこともありますので、その一環として福島ユナイテッドのスポンサーを降りたと。そういった形です。

先注会・松谷

なんか、資金潤沢にね、動数があるから、そういうとこやり直すかなってちょっと不思議に思いましたけど。後半ですね、安全、防災意識。先ほどね、池作ったらより安全になると、こういうことをおっしゃっています。ですけど、昨日行った時に鈴木さんは、2 号調整池は、鷺倉ですね、山の上の方の台風 19 号時の降雨量で計算すると 8 時間溢れると。このため、水位計で監視し、溢れる場合には下流の小坂地区にはサイレンで知らせる方向で代表者 2 名と協議中。私が溢れる前提で、溢れたら避難しろということかと、そういうことですよという、こういう会話がなされましたが、この事実は認めますか。

Amp 鈴木

松谷先生はですね、いつもですね、自分の都合のいいところだけ切り取って、ここで公開するんですよ。この話の前後に色々お話があって、現状の状態で、開発前ですよ。開

発前よりも開発後の方が調整池などができることによって安全性が高まるというお話をま
ずしています。その際に、設計としては福島市の雨量というので設計をしているんですけ
れども、その林地開発の許認可を取る前の段階で、いやそうではなくて鷲倉地区の雨量、
しかも台風19号の時の雨量で計算したらどうなるのかという要望があったので、住民の
方から。なので、それをシミュレーションして、そのシミュレーションした結果は、その
同じ台風19号の時のような状態で雨が降り続くと、8時間で2号調整地の洪水吐、これ、
溢れるっていうの前に洪水吐っていうのをちゃんとお話、現場で見ながらしているん
ですけども、そこはカットされちゃってるんですけども、通常はオリフィスという調整
しながら流れる出口があるんですけども、そこから下流の川がネックポイントと言って、
溢れないようにするために調整して流すんですけども、ちょっととどンドンそれより強い
雨が降ってくると溜まるんですね。これを調整しながら流すというのは調整池の役目です。
それを、台風19号の鷲倉地区、先達山よりずっと奥のところですね。この台風19号の雨
量のときどうなるかっていう答えとしては、同じような条件起こったら8時間ぐらいで洪
水吐の上部から、ロートみたいになっているんですけど、こう、そこから流れ出すとい
う話をしております。それに対して、じゃあその対策はどうしているんだということなんで、
溢れたら避難しろということだったわけじゃなくて、その溢れる前にその洪水吐の水位か
ら下がったところで、溢れる前とか、1時間とか2時間前。2時間前って話なのかな。そ
れはまだ決めてない、これから決めるんですけども、そこで電極なのか水位をキャッチ
する装置をつけて、自動で。それによって避難ができるように、地区に防災の装置をつ
けて、みんなが避難できるようにやりましょうと。万が一の際にもそういう施策を取っ
ておかないと、この今後、何年か経って、10年、20年経って地球温暖化が進んでいった時に、
どういう雨が降るかわからないじゃないですか。だから、そのための策としてそういう策
をやっていますよっていうお話をしたんですけども、本当に私、腹立つのが、自分の都
合のいいように切り取って、ここでいつも説明するんですよ。だから、松谷先生と話をし
ていて、私、屁理屈っていうのがそこなんです。

先注会・松谷

いいです、言わせていいです。ここですね、調整地っていう、2号調整地、ここなん
ですね。ちょっと現場昨日私たち見ていて、1番この下に、小坂地区とか水上地区とか色々
あるんですが、本日の新聞報道によると、福島市の別の団体がですね、この事業者が提出
した、そもそも開発者、この事業者、Amp社ですけど、雨水調整池の下流の沢が流すこと
ができる水量、流下能力に関し、事業者が過大評価している。整備された調整池の設計で
は、放流された水が沢から溢れ、県の許可基準に反する「危険な開発」であるっていう風
にデータとともに主張されて、これをちゃんと現地確認しなかった県がおかしい、県もお
かしいよねっていうことで、開発許可取り消しの申し立てを正式にして、報道もされてい
ます。まず、こういった住民からですね、ここまで取り消しの申し立てが出るぐらいにな

ったことについて、シュタインさんはどのように法人代表としてお感じですか。

Amp マルティン・シュタイン

もうこれは我々もしっかりルールに従ってやりますので。そういう説明です。

先注会・松谷

この時に科学者として知見を提供された科学者がこの会場にいらっしゃるんで、ちょっと一言これ補足をいただきたいと思います。

鈴木猛康氏（山梨大学名誉教授）¹

はい。こんにちは。鈴木と申します。まず最初にですね、その調整池作ったから前よりも安全になるとおっしゃいましたよね。ここについて完全否定させていただきますね。これだけは看過できないんですよ。福島他のですね、太陽光発電所の中でもやはり事業者がそういう嘘をついていました。残念ながら、こういう嘘に対してですね、県はちゃんと判断ができないんです。福島県だけではないんです。それ結構ですね。雨が降って、それが流れて川まで行くというこのプロセスは、河川工学というですね、土木工学の中でもちょっとですね、複雑な分野が関連しているんです。ですから、これを知らないで上澄みだけを読もうとすると、皆さん、これ間違えます。で、まず山には、雨が降った時ですね、木が生えて葉っぱがあると、どれくらいですね、雨が、今度は逆にですね、蒸散するという風にお考えですか。これ教科書に書いてあります。お答えになりませんか。雨が降った時に、葉っぱからどれくらいの雨が蒸散するかご存知ですかって聞いているんです。

¹ [科学的説明の文意を明確にするために、該当発言部分を修正したものを脚注に表示する]

鈴木猛康氏（山梨大学名誉教授）

はい。こんにちは。鈴木と申します。まず最初にですね、その調整池作ったから開発前よりも安全になるとおっしゃいましたよね。これを完全否定させていただきますね。これだけは看過できないんですよ。福島他の太陽光発電所でもやはり事業者がそういう嘘をついていました、残念ながら、こういう嘘に対して、県はちゃんと対処ができていないんです。福島県だけではないんです。雨が降って、それが流れて川まで行くというこのプロセスは、河川工学というですね、土木工学の中でもちょっと難しい分野が関連しているんです。ですから、これを知らないで上澄みだけを読もうとすると、皆さん、間違ってしまう。まず山には、雨が降った時ですね、木が生えて葉っぱがあると、どれくらいの雨が、今度は逆に蒸散するとお考えですか。これ教科書に書いてあります。お答えになりませんか。雨が降った時に、葉っぱからどれくらいの雨が蒸散するかご存知ですかって聞いているんです。

Amp 長谷部

ごめんなさい。我々、別にそういう技術的な議論をしに来ているわけではないんです。

鈴木猛康氏²

いや、だから、それはいいんですよ。いいですか。じゃあ黙っててください。蒸散するのが2割から3割なんです。葉っぱがあるだけで、あの地下のですね、根にいっぱい水がくると、もう吸いきれないので蒸散するんですよ。だからこれ流出係数って言いますが、降った雨の0.2から0.3は蒸散するんです。これ雲になってます。だから0.7しか残りませんよね。ところが、設計の中では、この0.7がですね。流下係数と書いてある。

Amp 長谷部

ちょっと、ちょっと待ってください。ごめんなさい。大変技術的なその設計数値の話だと思うんですけど、それは、我々は法律や福島県の基準に従って設計していますので、基準がおかしいとかおっしゃるのであれば福島県に言ってください。

鈴木猛康氏

林野庁も、このことが違うんだと指摘しているんですね。

Amp 長谷部

技術的議論じゃなくて。

鈴木猛康氏

調整池に関係するんです。

Amp 長谷部

調整池に関係するとかじゃなくて、もうちょっと短く言っていただけないですか。時間がもったいないですし。

参加者

² 鈴木猛康氏

いいですか。じゃあ黙って聞いてください。蒸散するのが2割から3割なんです。葉っぱがあるだけで、地下にいっぱい水が浸透してくると、もう根が吸いきれないので水が葉から蒸発するんですよ。降った雨の0.2から0.3は蒸散するんです。雲になります。だから0.7しか残りませんよね。ところが、設計の中では、この0.7が開発前の流出係数としている。(先達山は保水能力が高く、0.3程度はあるので、実際の流出係数は0.4程度)

調整池作ったら余計安全になるって言ったんだろ。それがおかしいって言ってんだよ。

鈴木猛康氏³

皆さんの設計の中では調整池は、降った雨の 0.1 だけを溜めるようになっているんですね。現実には 0.4 から 0.5 です。これ、福島県の林地開発許可の手引きには書いてないですが、林野庁の方でちゃんと書いてあるんですよ。0.3 から 0.7 って。このことを、皆さんは、河川の方、河川の断面を決めるためにたくさんの雨が河川に流れてくるよっていう、その数値の 0.7 をお使いになっているんですね。だから、ここからもうですね、調整池を作ることによって安全になりましたなんて、もうないんですね。何も開発しないで調整池を作っ

³ 鈴木猛康氏

皆さんの設計の中では調整池は、開発後の流出係数が 0.8、開発前の流出係数が 0.7 としていいますのでその差は 0.1、降った雨の 0.1 だけを溜めるようになっているんですね。現実には開発前の流出係数は 0.4 から 0.5 ですから、4 倍の容量の遊水池が必要になります。福島県の林地開発許可の手引きには書いてないですが、林野庁の細則にちゃんと書いてあるんですよ。林地の流出係数は 0.3 から 0.7 って。この流出係数を、皆さんは、河川の安全な断面を決めることを目的として想定最大の流量を計算するための流出係数 0.7 をお使いになっているんですね。だから、調整池を作ることによって安全になりましたなんて、ありえないのですね。何も開発しないで調整池を作ったら安全ですね、そうじゃないですよということを、ここで申し上げておきます。プラス、この林地開発許可に対しての申請書にはたくさん審査項目がありますよ。それから、福島県では特に集中して太陽光発電所の開発が行われていましたので、多分ですね、チェックが行き届いていないんです。私は福島県の担当者とお話しましたので、県の技術レベルはわかりました。全国でもこれに近いですよ。だから、福島県だけが悪いわけじゃないですけれども、住民の皆さんが気にされている災害に対して、1 番危険なことをおやりになったのは事実です。ほとんどが凝灰質、火山灰が溜まった同じような地盤の近くの他の太陽光発電所に私は行きました。雨が降ることによりポツポツと穴が空いて表面が砂になっていました。多分、現地もそうですよ。現地を見せていただける時に、確認をさせていただきますけれどもね。雨が降ると、水だけでなく土砂も流れますよね。沈砂がちゃんとできているかどうか、図面から見ただけでは不安です。だから、こういう点を考慮して、まずは対策をすることを真摯に考えていただきたいんですよ。その結果、開発のですね、予定地の面積を減らさなきゃいけないとかいう決断になるかもしれないし、調整池を拡大しましょうということになるかもしれません。それから、そこに書いてある 2 号調整池のその下流の小さな河川ですね、金堀沢。ここがちゃんと改修されていれば、河川の断面が作ってあればいいんですけれども、福島県に聞いたら確認してないから知らないとおっしゃったんですよ。現地も知らない、現地も見ないで開発の許可をしているっていうこと自体、計画の審査そのものを見直してらわなきゃいけないと思っています。もう一点、景観条例はご存じですよ、長谷部さん。

たら安全ですね、そうじゃないですよということ、ここでは申し上げておきます。プラス、残念ながら、福島県の方でこの林地開発許可に対しての申請書、これたくさん項目がありますよ。それから、福島県は特に集中してこの開発が行われていますので、多分ですね、チェックが行き届かないんです。これ、私がちゃんと福島県の担当者とお話したので、もう向こうの技術レベルっていうのはわかりました。これね、全国でもこれに近いですよ。だから、福島県だけが悪いわけじゃないですけども、今皆さん（住民）が気にされてるその災害に対しては、1番危険なことをおやりになっているのは事実です。近くの他の太陽光発電所も私はチェックしました。同じ地盤の。ほとんどが凝灰質。灰が溜まったものですね。雨が降るとポツポツと穴が開いて砂になっていますよね。多分現地もそうですよ。見せていただける時に、その時に確認をさせてもらいますけれどもね。その時に、雨が降るとともに、水だけじゃなくて土砂も流れてきますよね。沈砂、ちゃんとできているかどうか、さっと図面から見ただけでは不安です。だから、こういうところを考慮して、まずは対策をするっていう、ちょっと真摯にね、考えていただきたいんですよ。その結果、開発のですね、予定地の面積を減らさなきゃいけないとかいう決断になるかもしれないし、もう一度調整池を拡大しましょうということになるかもしれません。それから、そこに書いてあるのは、2号調整池のその下流のですね、小さな河川ですね、金堀沢。ここがちゃんと改善されていれば、断面が作ってあればいいんですけども、福島県に聞いたら知らないとおっしゃったんですよ。現地も知らない、現地も見ないで開発の許可をしているということ自体が見直されてもらわなきゃいけないと思っています。もう一点、景観条例はご存じですよ、長谷部さん。

Amp 長谷部

はいはいはい。

鈴木猛康氏⁴

⁴ 鈴木猛康氏

福島市は Amp 社に対して勧告していますよね。言ったことと違うじゃないかと。勧告しています。それは口頭だけかもしれないし、書類だけかも知れませんが、勧告行為はしていますよね。それは当然ご存知ですよ。それに対して回答をされていますからね。次は命令になるのをご存知ですか。命令が出たら景観条例違反になりますよね。それもちゃんとわきまえていらっしゃる？その上で、計画じゃなくともう実際に開発されていますから、景観の専門家を来ていただきませんか。今言われているのは、いわゆる景観工学。東京大学の土木工学科の、鈴木先生、中村先生、篠原先生の研究室発祥の景観工学です。景観学ではない。だから、視点を決めて、開発する場所をできるだけ景観を痛めないようにどうやって調査をするかということ、工学的に決めていますね。でも、本来の景観っていうのは、歴史とか文化、これを「観」として考える。景観の「景」は景色です。

福島市は Amp 社に対して勧告していますよね。言ったことと違うじゃないかと。勧告しています。それは口頭だけかもしれないし、書類だけかも知れませんが、勧告行為はしていますよね。それは当然ご存知ですよね。それに対して回答をされていますからね。次、命令になるのご存知ですか。命令が出たら景観条例違反になりますよね。それもちゃんとわきまえていらっしゃる？その上で、計画じゃなくて、もう実際にですね、開始されていますから、景観の専門家連れてきませんか。今言われているのは、いわゆる景観工学。東京大学の土木工学科の、スズキ先生、ナカムラ先生、シノハラ先生が景観工学です。景観学ではない。だから、視点を決めて、開発する場所ができるだけ景観を痛めないようにどうやって調査をするかということをしてですね、工学的に決めていますね。でも、本来の景観っていうのは、歴史とか文化、これをね、「観」の上で考える。景観の「景」は景色です。自然です。「観」は人の価値なんです。だから、皆さんの価値、福島市に住んでいらっしゃる皆さんの価値を考えて景観を検討しなきゃいけないんですよ。だから、工学ではなくて、景観学の先生を連れて、実際にもう存在するわけですから、呼ばれたらいいですよ。それで、本当に景観学、景観工学から見てそれが許されるかどうか。当然、あの計測だけではないんですけど、皆さんの考えがありますからね。それをやられたらどうですか。その上でですね、面積縮小かあるいは撤退か、あるいは現在提案されているような対策ですね、これで景観上問題がないのかということを明らかにしてから前に進んだらどうですか。

Amp 鈴木

詳しいお話、ありがとうございます。いろんな方のお話を 30 日も昨日もお聞きすることができて、とてもありがたいというのは正直に思っています。これは取り組めることはやりたいっていう話は前回のこの場でもしていると思うんですけど、そこは実は私たち全然変わらなくて、今回のこの記事に関しても当然拝見しています。ただ、どういう内容のものが申し立てされたのかということが今ちょっとわからないということがあるんですけども、また、県の方の方から色々問い合わせや、どういう風な対応やるとか、いろんな指示や連絡があると思いますので、これに関しては、やっぱり行政の方針に従ってやっていくってことは、ルールを守るっていう上では大事なことでと思ってやっていきたい

自然です。「観」は人の価値なんです。だから、皆さんの価値、福島市に住んでいらっしゃる皆さんの価値を考えて景観を検討しなきゃいけないんですよ。工学ではなくて、景観学の先生を来ていただきご判断いただくのです。実際にもう開発されているわけですから、今更シミュレーションなんか必要ないですよ。それで、本当に景観学、景観工学から見て開発が許されるかどうか。それをやられたらどうですか。その上でですね、面積縮小かあるいは撤退か、あるいは現在提案されている対策で景観上問題がないのかということを明らかにしてから前に進んだらどうですか。

と思います。

先注会・松谷

もういいですか。ちょっと時間があるんで。やったださるってことですね。これから色々対応。シュタインさん。トップとして。

Amp マルティン・シュタイン

はい、同じく。行政に従ってやります。

先注会・松谷

はい、最後ですね。色々まだあったんですが、ちょっと昨日の視察に行ったことがあって、先に話しちゃいました。この視察されたのは、私たちの会の中でも、造林とか、植栽を植えたりするのがお専門にされている松浦メンバーなんで、松浦さんから現場を見た上での、その緑化すると、今後についての、事業者の状況についての評価を。

先注会・松浦

今鈴木先生がおっしゃった内容と重複するんですが、現場を昨日視察させていただきまして、まず直感で感じたのが、造成のやり方、その他の仕上げが非常に乱雑です。私も何十年もこの土木の仕事に携わったわけじゃないんですが、どちらかといえば植林の部分なんですが、言葉はちょっと荒いですが、Amp さんのやり方、今回の先達山の開発のやり方は、環境破壊のプロと、私は思っただけです。あれだけの森林を一気に破壊してしまうっていうことは並大抵の努力ではできません。普通の人では。今の状況で調整池を作ったから安全だと鈴木さんもおっしゃいましたが、今までより安全になったと。その話はもう一切私の耳に入っていないような、内容なんですが、長年山の仕事に携わっている身からすれば、今安定している山を 70 年、80 年っていう蓄積された土壌の森林があるところを壊して、安定しているのにそれを壊してまでやって、調整地を作ったから安全だと言っていること自体がもうナンセンスだと。あなたたちの感性なのかなと Amp 社の感性なのか鈴木さんの感性かわかりませんが、そういう考えでこういう事業をなさっていること自体が、もう福島人をバカにしているし、日本をバカにしていると思っています。もう 1 つ言いたいことが、この森林造成地という、この造成地の中に調整しなくちゃならない箇所があるんですが、ポット苗の 1 メーター以上の苗木を植えなさい、ヘクタール 2000 本以上植えなさいって、県の指導に基づいてやっていますから、ちゃんと規則ですか。県の開発許可に基づいた本数増えていますとおっしゃったんですが、ただ植えればいいっていうものじゃないので、植林をするにあたって、表土もないところに苗木のポット内をぼんと入れて、本当にそれで森林が成立するなら、私たちが今までやってきた森林の植林とか手入れとか、森林再生事業もやっていますが、それとは全く相反することをやっているっていう

ことを自覚していただきたい。これやっていること自体がもう景観云々よりも全然、Amp社さんのそれこそ技術者、土木の本当のプロと言える方もいないし、森林の再生のプロをやるんではないということ自体にも問題があるんだなと思っています。鈴木さんのおっしゃっていることは、現場で色々今までの経験を元にお話ししてくれたんですが、これは言っていると思うんですが、昨日鈴木さんの見解としては後から来たんで、あの傾斜に状況に設置するのはいかになものかとおっしゃっていました。なので、もう少し平らにしてそこに植林したりパネルを並べるのがいいんじゃないかとおっしゃっていたんですが、多分それが本来の本当の気持ちなのかなと思います。ただ、それでもやっていることは同じなので、その一因、環境破壊が一役を担っているという自覚は持っていただきたいなと。以上です。

先注会・松谷

また現場に行かれた方で、福島大学の地質学と、あと地下水の専門家の柴崎先生も現場をご覧になったので、一言コメントお願いいたします。

柴崎直明氏（福島大学教授）

福島大学の柴崎と申します。昨日、あの現場を見させていただきました。私の方から、やはりちょっとというか、かなり気になったのは、あれだけ大規模にですね、山を切って、切った土を盛っている盛土が多いんですね。やはり、数年前の熱海の豪雨災害の時の土砂流出の問題、土石流の問題もあったと思いますけど、造成地で1番気になるのは、その切土と盛土で、特に盛土は、大雨のとき土石流になったり、あるいは地震が起こるとですね、やはり切土と盛土の境で亀裂ができて崩れたりとか、これはもうこれまで全国各地で色々事例がありますし、東日本大震災の時だって、仙台の住宅地で以前の地震の後、またさらに起きたってということもあるわけですね。昨日、切土、盛土との関係とかですね、それから斜面の法面って言うんですけど、切った斜面のすぐ下にですね、水路があったりして、あっという間に、雨が降ったら土砂で埋まっちゃうんじゃないのかとか、そういった感想ですね、色々質問させていただいたんですけども、重要なところはですね、ちょっと今はお答えできませんというような返事だったので、かなり不安に思ったというところが率直なところですよ。とりあえず以上です。

先注会・松谷

技術的なことはお答えできないと、今もおっしゃっているんで。とりあえず。ですから、専門家の方が見ても色々と疑念呈しているわけで、なんかあちらから言えばね、屁理屈言っているとかね、またなんか文句言っているとか。我々は自分たちの町の色々な将来とか安全とか、住民の命と関わっているから真面目にやっているだけです。それだけ言って前半終わりにしたいと思います。あと6時半まで休憩です。

<休憩>

先注会・松谷

6時半になりましたので、後半の分を開始したいと思います。

で、後半はようやく皆さん、2 時間もあの議論にお付き合いいただいて、皆さんから質問、質疑応答の時間を設けたいと思います。それで、ちょっと最初にですね、6時半から8時半まで4時間予定して、途中でお帰りになる方もいるかと思うんで、最初に申し上げたいことが1つあって、これ1番最後に言おうかなと思ってもう帰られちゃった方いるんですけど、幟（のぼり）をなんか欲しいっていうリクエストあって、あそこで販売しております。販売って言っても、我々は義援金を募る立場ですので、大体義援金プラスですね。この幟をどのぐらいで買っていただくと我々助かるかっていうと、3000 円以上義援金をいただいた方はですね、ぜひ持って行って、ご自分の所有地ところにですね、立てていただけるとありがたいなっていう風に思ってますんで。別に 3000 円じゃなくていいですよ。もっと上の、もっと別の、違う顔のお札とかでもいいんですけど、その辺りは途中で帰る時にご支援いただけるか、よろしく願いいたします。質疑応答の進め方ですけど、ちょっとこの脇が開いているんで、途中でですね、質問ある方は、向こうの方にこう並んでいただいてですね、で、こちらでマイクをお渡ししますので、そこでご質問ください。これだけの人数ですし、いつもこういう会議で難しいのは、長くなる時間をですね、いかに制限するかということなので、簡潔にですね、質問する方も、答える方も、なるべく簡潔に、多くの人に質問が回るようにしてください。そのようにご配慮ください。私、前回同様、遠慮なく介入しますんで、ちょっと話がね、なんか1つだったのに、3つ、4つとか、そういうのなしです。途中でちょっと遮ることがあるかもしれませんが、予めご了承ください。じゃあ、それでは、ちょっと質問ある方、こちらのね、あらかじめ移っていただけると、まず最初に来た方もいらっしゃるんで。お名前とかおっしゃりたくない方はおっしゃらないでくださいね。

参加者 1

こんばんは。先ほど長谷部さんが、松谷氏がカナダの本社にメールを送った時に、あなたたちがもし自分のメールアドレス、カナダ人から直接メールが来たらどうしますかっておっしゃったんですけど、乱暴な例えだなと思ったんですが、松谷氏は個人に送ったのではなくて、会社に向けて送ったので、まずその辺がちょっとどうかなって思ったんですけれども。私も乱暴な例えになるかもしれないですけど、例えで話させていただいていいですか。例えば学校という組織だとして、保護者が何か学校に訴えたり、すごく大きな問題を学校に訴えたとします。そして、例えば校長とか教頭とか、一教員でも構いません、その一教員がそれを受けた時に、例えば理事長にどうしても直接会うことは保護者ができない、

だから、先生、申し訳ないですけども、理事長先生との橋渡しになっていただけませんかっていうお話をした時に、なんで一教員の私がどうして理事長に話をしなければいけないんですか。直接関係ないですよって言われたら、いや、文句を言う人は言うでしょう。学校側に何かあって反対する人は、反対してる人は、それは反対してるんだからわかりませんよと言われたら、保護者は納得いきますか。先ほどの話はそれだと思います。それをあなたに答えていただきたいて言っただけじゃなくて、カナダの責任者に伝えてほしいと言った話なんですけど、その辺はちょっと私は橋渡しができないっていうのは納得いかないんですが。どういった理由でしょう。

Amp 長谷部

そうですね。まず、その個人のアドレスにカナダの人からメールが来たっていうのはわかりやすいかと思って説明したんですけど。それはそれだけの話です。橋渡しの件なんですけれども、橋渡しはしています。先ほどもお伝えした通りで、カナダの本社の方に、そんなメール来てないかということで問い合わせしていますが、それに関しては特に反応ないです。その橋渡しをしてくれないかという話なんですけれども、それで、任意の協力じゃないですか。そういう橋渡ししなきゃいけない義務があるとかそういう話じゃなくて、こういう趣旨ではしています。私、普段から松谷さんとメールでやり取りとかもしているんですけど、かなり上からの内容。そこまで言わなくてもいいんじゃないのかとか、人に物を頼むんだったら、やっぱり我々人間ですので、これやれよって言われても何やねんって思いますし、お願いだからこれちょっとやってくれないとか言われたら、しょうがないからやろうって、そういう風に思っていたんです。松谷さんの頼み方が悪いんで、協力する気にならないんです。ただ、協力はしていますけど。繋いでいます。

参加者 1

じゃ、例えば保護者が怖い言い方をしている保護者だったら、それは教員として腹が立つので、もうそれは対応できないっていうこととですね。

参加者 2

福島から来た●ですけども、先ほど鈴木先生がおっしゃったように、あそこ先達山は凝灰岩で火山灰が固まったところですから、木を切るってことは保水機能が失われることですから、カンカン照りとか、そういうときにはパラパラってなって、そしてましてや急斜面ってことで土石流が、今までは先達山で起こったことなかったですけど、この熱海の土石流のように、開発地ってのは土石流が起きない今までと違って、いくら池を作ったってないとは思えないと思います。Amp 社の方はある程度過ぎるとどっかに移動しちゃうわけですから、もし土石流が起こったり、あと眩しくてく運転が大変だったってことで交通事故が起こったり、保水機能がなくなったことによって井戸水が枯れたり、おそらくこれ

から井戸水枯れてくる人もいると思うんです。そういう場合の補償は Amp 社でするんですか。それともあの身売りした会社がこれからもしてくれるんですか。そこをお聞きしたいと思います。

Amp 鈴木

明らかに因果関係が認められる場合は、当然その責任が生じるという風に考えております。あと、身売りではなくて譲渡ですね。で、それからなんて言えばいいんでしょう。転貸ではなくて持ち分譲渡ということになります。身売りではないですね。責任の所在は、因果関係が明らかに認められれば所在は、責任はあるという風に考えますけど。

Amp 長谷部

Amp が責任というか、この発電所っていうのは、AC7 合同会社っていう発電所を持つ会社を立ち上げてますので、その会社が責任を持っています。なので、発電所に関連して何か損害が起きたですとか、そういったものがあれば、AC7 合同会社が損害賠償責任を負うと、そういった形になります。

参加者

でも立ち上げたのは Amp でしょう。

Amp 長谷部

人しゃべってるときに遮らないでください。AC7 合同会社を立ち上げたのではなくて、我々がその AC7 合同会社を運営管理していますので、何かそういうご指摘とか、そういうご要望があれば、我々の方に来ていただければと判断して対応すると、そういった形になっております。なので、我々今後も AC7 合同会社と Amp 社が（ハウリング音）間は引き続き責任を持って対応すると、そういった形になります。

参加者 3

今の方と質問かぶっちゃったんで、ちょっとあれなんですけども。多分、なんという、一生懸命やられてるのはわかります。ただ、そもそもある前提のものを壊すわけですから、それを元通りにしろっていうのはとって無理だっていうことも多分承知の上で工事してると思います。災害とか、さっきの崩れたりとか交通事故とか、そういうのがあった場合に、譲渡された先に責任が行くのは、家とか買えば家買った人になると思うんですけども、そもそもの構造的な欠陥ですか。今の段階の設計上は問題なかった、検査も県は通りました。ただ、実際に運営している中で、構造的な欠陥が後々見つかって、構造的な、作った問題として問題が起きた時も、その時に施工した、設計した業者っていうのは法律的に責任は一切ないっていうことなんですか。

Amp 長谷部

施工の瑕疵とかそういった話だと思うんですけども、施工の箇所によってやはり対応も違ってきますし、責任の取り方も違ってきますし、また、手抜き工事とかそういうのが後で発見されれば、それはすぐ、施工会社の責任ということになりますし、それはもう一概にそれだからこうとかいう話にはならないので、ケースバイケースで判断するしかないという回答になります。

参加者 3

ありがとうございます。さっきも専門のいろんな方の意見を基に改善できるようにはしているってことだと思うんですけども、多分それでずっとやっていくと、そもそもの計画段階があって工事するってなると、コストとかってなった時に、もう割が合わないって言うんですかね。投資に対してのリターンが減るわけですから、今後の計画の時にそこらへんは問題がないようにというのを踏まえてよく考えた上で進められた方がいいじゃないなと思いました。

参加者 4

福島市の●と申します。貴重なお話、ありがとうございました。日本事業代表のマーティン・シュタインさんにお聞きしたいと思います。先達山について、例えば見直しとか中止とか撤退ということになると、これはシュタインさんで判断できるのでしょうか。それだけの権限と責任を持ってらっしゃるのかどうか。できないのであれば、Amp 社の誰ができるのか。あと、長谷部剛さんと鈴木英樹さん、クビできる権限はシュタインさんにあるのかどうか。ちょっと説明できない方だと思いました。そして、クビにできるのは誰でしょうか。ちょっと教えていただけたらと思います。

Amp マルティン・シュタイン

長谷部さんが言った通り、我々がその AC7 合同会社の運営をしておりまして、我々がそれを、そういう大きい発電所に関して大きいものを決めることはできなくて。

Amp 長谷部

ごめんなさい。要は、我々単体では決定できることじゃないので、他の関係者の別の会社の人たちとも協議をしますけれども、我々の社員という意味ではマルティンが責任者になるので、最終的な決定権者はマルティンです。クビにされるかどうかは、クビにされないように頑張ります。

参加者 4

マルティンさん、責任についてお聞きしたいのでお答えください。どうなんでしょう、マンティンさんとして。

Amp マルティン・シュタイン

すいません、これ、どちらに関してですか。

参加者 4

どっちも。ないってことです。じゃあ、マルティンさんには、先達山の中止とか撤退とか、そういうことを判断する権限はないってことです。だから、さっき長谷部さんが上の方って言いましたから、マルティンさんにはそれがないってことです。

Amp 長谷部

質問がわかりにくいんですけど、ただ、我々として、単体では決めることではないので、我々の、Amp の意見としては出しますと、そのときに最終的に決定するのはマルティンと、そういう風にお伝えしています。なので、それと違う質問をされてもお答えのしようがない。

参加者 4

マルティンさんは決定できるってことです。

Amp 長谷部

Amp 株式会社として決定できることに関しては、マルティンが責任者です。

参加者 5

私の方からですね、防災という観点でお尋ねしたいと思います。実は、ご存じ、先ほどのね、お話もございましたように、テレビ放送と、今朝の地元新聞と、あと大手新聞のかなり大きなスペースで、非常にあの山は危ないんだと、実はね、本当危ないのだということが多くの市民の方にご理解をいただけたらなと思うんですけども。私がお尋ねしたいのは、この、私は手に持ってますの、皆さん方が林地開発申請の時にお出しになった地図の写しです。調整池が4つございますけども、一番大きな2号と、そのそばにある1号ですか、これ地図見てみますと、私、現地見てないんで専門的なことは言えないんですけども、あと地質学の専門でも防災の専門でもございませんので、全く心配症の一市民ですから、そこをわきまえてお聞きするんですけども。この地図を見る限りですね、この2号調整池、1号調整池のそばを、こう急に傾斜が強くなっているんですね。かなり急にになってるんだろうと思われるんですよ。ここがですね、どれだけの水が果たしてこの調整池ですか、貯められる力があるのかと。今は気象が不安定で、50年に1度の雨がいつどこで降るかわ

かんないいうようなことをおっしゃってました。ということは、今年あの先達山で降るかもしれないし、来年降るかもしれないんです。これ見た時にですね、非常に不安に思ったんですね。水量はどのくらい貯められるのかと、あとは、工事したわけですから、砂がたままないのか、砂が溜まっちゃえばですね、この調整池の機能を失うわけですから。

Amp 鈴木

2号調整池は6万リューベの調整能力を持ってしまして、これは50年確率で設計をされております。堆積を砂がした場合はですね、オペレーションの中で浚渫を盛り込んでおりますので、これは適宜月1回の巡回の中で、その6万リューベへの堆積をやはり下回るような状況になった時には、適宜浚渫を行うようなオペレーションで運用をしていきます。

参加者6

福島から来ました●と申します。私的なことをちょっと言いながら、ちょっとご質問したいんですけど。私の家からですね、ずっと今まで桃畑があって、円形に吾妻山の麓から吾妻小富士、一切経山、安達太良、全ていい景観だったんですよ。私の家の目の前のいい景観。真正面に地肌が見えていつもガラガラする、ああいうものがね、できた。もう非常に悔いてます。それで、なんであんなもんができたんだって。東京から来る友達、仙台に来る連中、福島に来る連中から、なんであんなところに開発なんかできたの。よくお前ら黙ってたね。おめえら恥ずかしくないのかと。あの景観っていうのは、福島市民がずっと24時間あるいは一生見続ける眺めなんですよ。一時のエネルギーの金儲けの話ではないんです。これは大変、再生エネルギーは立派なことですよ。しかし、生活の上での景観っていうのはもっと大切なんですよ。それが侵されるっていうのはとっても我慢できない。

今日は聞いたら景観シミュレーションやった。景観シミュレーションも見様によっては行政を騙すやり方ですよ見え隠れするようにして影響ない、あるいは一直線しか見えない云々、あれは行政を騙すことでもあるし、地元地元っておっしゃるけども、地元っていうのは地元だけじゃないんですよ。福島市民、もしかすると伊達市まであそこの景観を見ているんですよ。そのぐらい大切なものに対して、地元に対して説明したからそれで済むなんていうことは、大きな開発としてはとっても許容することはできないですね。1つ、その景観に対する、これからですね、景観の指摘が、さっき鈴木先生もおっしゃられてたけども、景観に対して専門的な知見でもう1回シミュレーションをして、その意見によって景観法のいわゆる是正命令とかそういうものが出れば、その対応できるかどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。以上です。

Amp 長谷部

景観法に基づく対応は当然法令の上でやってまして、今のところ特に指摘を受けておりません。今後、何か指摘をいただければそれに従って対応いたしますし、そういった、今、

先ほどのようなご意見をいただければ、検討して見ていくような対応をいたしたいという風に考えています。

参加者 7

福島県会議員の話を聞く機会がありまして、能登半島も多分に漏れず多くのメガソーラーがありましたが、今回の能登半島地震によってメガソーラーが崩壊し、崩壊したメガソーラーは今もって撤去されていません。手付かずの状況です。福島県は地震に強い県と言われてきましたが、東日本大震災によって大きな被害を負いました。天災は忘れたころにやってくるということわざもありますので、先達山のメガソーラーが、そのような地震によって色々な被害が起きた時にですね、管理施行した責任があるかと思います。そのようなシミュレーションも行ってきたとは思いますが、11万機のソーラーパネルがですね、3分の1とか、半分とか、または全部崩壊したっていう風な場合の御社の責任と復旧対策っていうのをどのように考えているのかを、対策していますとか大丈夫ですとかではなくて、具体的な対策を教えてくださいたいんです。

Amp 鈴木

その耐震強度を踏まえた設計で施工されております。ですので、実際にそういう災害があった際ですね、それからサイトの中で何かいわゆる自然災害が発生した際には、これは行政とも連携して緊急連絡網っていうのを構築しておりまして、今も運用しています。完成後も県、市とも連携をして、近隣の住民の方も含めてですね、やっていますので、その辺の対策は十分に取っていくというつもりで計画を策定しております。以上です。

参加者 8

福島の●と申します。吾妻山というのは、私たち市民にとって、その辺に山ありますけれども、単なるそういう性格の山ではない。あの山は、私たち市民にとっては、吾妻山あつての私たちという風に言ったら1番ふさわしいのかもしれない。と申しますのは吾妻山には全てのことが含まれていまして、歴史、文化、教育、それから諸々もあります。そして、時によっては、非常にこう、草原のあの姿でもありますし、春や夏になると、色々な花が咲いたりして、私たち市民にとっては、1番大事な存在ということなんですよ。それで思うんですけども、Ampの皆さんのそれぞれ1番大事なものをもちだします。それで、その1番大事なものがもし棄損された場合、他の力によって汚された場合、その時皆さんはどうされますか。そこを聞きたいと思います。

Amp マルティン・シュタイン

我々が本当に皆さんの意見を聞いて出来るものをやりたい、そういう風にやりたいと思い

ます。

Amp 長谷部

ま、大事なものが壊されるような危険が生じたら、当然守ります。大事なものって人それぞれ違うと思います。私にとっては家族、妻と子供が大切ですので、そういったところに何かあれば当然守ると思います。人それぞれそういうポイントって違うと思いますので、そこが、景観のところが1番大事だとお考えになる方であれば、それを大切に思われるっていう、そういうお考えは私たちでも尊重はいたします。

Amp 鈴木

昨日、松浦さんとかにはちょっとお話したんですけども、私、長野県の松本市の出身で、昨日に限らずなんですけど、同じことが北アルプスの麓で起きたらどんなかっていうのは考えたことがあります。例えば私は松谷さんとか松浦さんの立場だったらおそらく反対とやっていると思いますけれども、一方で、この太陽光の発電所を普及させさせてくっていくのにとっても重要なことだと私は個人的には思っていて、2050年までにやらなきゃいけないことが色々あって、それをやっぱり日本は達成全然できてなくて、そのために私、この仕事を誇りをもってやっています。皆さんの中でやっぱり先達山というものが、とても今●さんのおっしゃったように思い入れがあって、雪うさぎの話とかももちろん存じ上げている。ただ私、仕事に誇りを持ってやっているので、やっぱり太陽光の発電所はこれからもどんどん進めていかないと2050年には間に合わないっていうのはすごく危機感を持っています。話は長くなっちゃったんですけど、申し訳ないという気持ちはあります。ただ一方で、温暖化を防ぐためにやらなきゃいけないことっていうのは本当にあって、すいません。

先注会・松谷

そうすると2巡しちゃうんで。色々いらっしゃるのにまた同じ方に回るんで。2巡目になる人に回さないってわけじゃないですけども、遠慮されてないでどんどん言っていただければ。2回目の方回しますんで、ちょっと2回目の方、ちょっと一旦待っていただいて、1回目の方、先にちょっとお願いできますか。じゃあ、よろしくお願いします。

参加者9

福島の●と申します。私はですね、市のホームページに載っております景観ですね、薄っすらと見える程度という風なことで表示されているんですけども、今回なんかコナラを植栽したという風なことなんですけど、このコナラを植栽して、当初予定でですね、何年後にその薄っすらと見るようになるのか。それとですね、前回の説明会の時にですね、環境アセスは日本気象協会にお願いしたという風なことで、で、その薄っすらとなるっていうの

は日本気象協会からのなんですかね、こういう風な報告をしなさいという風なことで出したんでしょうか。私、日本気象協会の方にもちょっと電話して聞いたんですが、直接の担当者かどうかわかんないんで、なんか電話に出た方はうやむやというか、はっきりしない状態だったんですけどもね。その辺どうでしょう。ありがとうございます。

Amp 鈴木

まず、薄っすらと黒い線のように見えるというのは、弊社の過去の担当者が、正確には場所によってはうっすらと黒い線のように見えるということを審議会で質問された上で発言しているものでございます。この場所によってはというのが全部カットされてしまっているんで、薄っすらと黒い線のようにという風に皆様方には認識されていると思いますけど、場所によってはという言葉の冒頭につきますので、ご認識を改めていただければと思います。

参加者

じゃあ、ちゃんと見えるとこから見ればいいじゃん。ねえ、そんな線が見えるって。

Amp 長谷部

その日本気象協会の件ですけれども、当然、環境アセスの専門家としてお願いはしておりまして、彼らは別に我々の意見を聞く立場ではないです。我々がこういう風を書いてくれと言ってそういう風を書いてくれるわけではないです。向こうが調べた上で、こういった内容でどうですかと来たものに対して我々は、じゃあこれをお願いしますとお願いしたとそういう形です。

参加者 10

私は●と申します。東京で弁護士を 60 年以上やっております。福島高校、18 歳で出まして、それからずっと仙台とか東京に行っております。最近福島に帰る機会が増えまして、その度にあそこの山は削られておりましてですね、ちょっと画面をさっきの「景観」っていう画面にしてもらえますか。最近、この景観がすごく削られているっていうか、損なわれているっていうか、そういうことに心を痛めるようになりました。この景観っていうのは、僕ら福島の、例えば 10 万人、20 万人、30 万人の人口のある意味では最も大事な、先ほどそういうことで 1 番大事なものだというお話、そういう意味では、ちょっと一部重複するかもしれませんが、これは福島市民 10 万、20 万、30 万人が毎日眺めて、いいなと思って眺めていた、まさに忘れられない眺望です。今の前段ですけどね。それで、この眺望というのは、福島市民がみんな持っている、こういうのを利益として持っている。そういう意味では、この眺望というのは福島市民の 1 つの財産ではないのか。そういう意味ではですね、これは我々福島市、私は福島市民ではありませんけど、10 万、20 万人の人た

ちが持っている財産権。そうするとですね、この眺望権を侵害する行為は、公共の福祉に反しない限り認められるけれども、公共の福祉に反すれば認められないんです。つまり、権利濫用としてですね、この眺望権を侵害する、こういう開発は認められないんです。これはちょっと僕のこういう壮大な見解ですけど、いずれは裁判所の判断に任せるようになるかもしれませんがね。こういうことについて、皆さん、特に今日、弁護士さんも出席のようですからね、こういうこと、眺望権を福島市民が、この素晴らしい眺望を福島市民が、10万、20万の福島市民が持っている、それを、しかもこれは財産にもなっていると、そういう考えについてはいかがお考えでしょうか。

Amp 長谷部

まず、財産権の定義は、財産権の定義がありますので、そこに景観は当てはまらないので、そこは答えのしようがないと言いますか、財産権に入るものは入りますし、入らないものは入らないと。眺望権についてはいろんな学説もある話ではありますが、それが法的根拠に値するのかどうかというところになりますので、それが法的根拠に値するのかどうかというところを、それもケースバイケースかなと思うんで、我々としてお答えできる立場にはないです。そういう感じです。

参加者 11

福島市の●といいます。先ほど専門家の鈴木猛康先生が、計算が杜撰でデタラメだっていう風におっしゃってましたが、その計算を、正しいと言われる計算にまたやり直す意識があるかどうか、確認したいと思います。

先注会・松谷

まだちょっと回答の方にちょっとか、会場でお話も聞こえてくるんで、質問されてる方もいるのでご静粛をお願いします。

Amp 長谷部

ごめんなさい、先ほども申し上げた通りで、我々としては、県の基準のこういう風に計算してくださいということに従って計算しています。いくらその外部の人、専門家なのか、そのお仕事をされているのか、それは色々あると思いますが、その一市民の基準に依拠するわけにはいかないんですね。やっぱり県として事業を出しているんで、それに従って計算をするしかないんです。なので、他の計算方法でどうだこうだと言われても、我々としては意見としては聞きますし、取り入れるものについては取り入れますけど、あくまでも県が基準を出している以上、県の基準に従わないと、我々法令違反になっちゃいますので。なので、他の方の意見については聞きますと、取り入れるものについては取り入れますと、対応できるものについては対応しますと、そういう回答しかできないです。

先注会・松谷

はい。では次の方お願いします。

参加者 12

福島市の●と申します。昨日午前中視察させていただきまして、ありがとうございました。実は私、松谷さんと本当にそばに住んでいるんですよ。昨日も奥村組の詰め所のヘルメットを回収された時びっくりしたんですけど。僕、すぐそばに住んです。長谷部さんとか鈴木さんが松谷さんにちょっと苛立つってというのは、言われる側なのでわかるんですけど、我々住民としては当事者意識が全然違うんですよ。やはりこの危機意識ってというのはものすごいものがあって、最初この景観がこういう状況になった時に、すごくやっぱり精神的にストレスも感じましたが、そこは諦めたとして。100歩譲って。でも、やはり災害へのリスクってというのはどうなのかというところで昨日ちょっと視察させてもらいまして。僕、昨日鈴木さんのご説明を聞いてちょっと安心したんですよ。ところが今日はやっぱり山梨大の鈴木先生とか福島大学の先生のお話を聞いていると、やっぱり不安になります。そして、県や市の許認可の担当者の中にはそういう専門家がない中でこれ決まってく中で、じゃあさっき鈴木先生に色々こう疑念を投げかけられた時に鈴木さんは云々と頷いてくれている。多分鈴木さんの中でもこれはちょっと、やはりちょっと検証しなくちゃいけないんじゃないとか、そういう風に僕は期待をします。昨日鈴木さんは個人的に色々僕は個人として言いますが、さっき鈴木さんが自分で図らずもね、自分が松本の出身だってことをおっしゃっていました。もし自分が生まれ育った松本市の美ヶ原でこんなのができたらこの野郎って思いますよって昨日言ってくれましたよね。僕はやっぱりね、このあと、去年の3月から鈴木さんこちらに来て、いきなり福島市役所の役人に囲まれて、福島市の人たちが目を充血して、もうとにかく市民からクレーム殺到して大変なことになってる。どうしてくれるんだっていうことで、危機意識を持ったっていう風におっしゃいましたよね。僕はそこで思うのは、福島原発事故をさかのぼること、佐藤栄作知事が、福島原発のプルサーマル計画ですね、東京電力のプルサーマル計画の一環として、福島原発に使用済み核燃料を貯蔵するに際しては、核燃サイクルの中でも1つのその役割として、ちゃんとしっかりと安全管理をしているんだということで経産省の役人と毎年やりあっているんだけど、4月になると経産省の担当者が変わってしまう。そうすると最初から説明しなくちゃいけなくなって、1からブリーフィングして■、そしてまた翌年になって同じことの繰り返しだと。その最中に東電は事故をどんどん起こしていった。だから佐藤栄作知事は事前承認を撤回したんだって言っているんです。僕はやっぱり不安に思っているのは、鈴木さんがやっぱりこの経緯、これがどれほど深刻な問題かっていうことを多分肌でわかってらっしゃる方だと信じて、信じたいからこそお願いするんですけど。あなた、ここに残ってずっと市民との対話のチャンネルの場ですもんね、やっぱサンドバックになって欲し

い。我々も僕も実はサービス業やってますけど、本当やっぱ日々お客さんからクレームきますよ。それに対応しなければ商売を続けられないんですよ。そのぐらい責任を負ったっていうことを自覚してほしいなっていうお願いです。

Amp 鈴木

昨日ありがとうございました。なんて言うんでしょう、松本と福島ってよく似ていて、盆地なんですね。寒い。西側がよく雪が降る。東側が降らないで、夏はカラッと乾燥する。よく似ているですよ。福島来た時もよく似ているなと思って。やっぱり本音の話で、昨日もした、景色悪いなっていうのはやっぱり感じている。これが本音のところですよ。ただ一方で、私、仕事で、さっきも申し上げたように、再エネ、ものすごく普及させたいんですね。これは景色とか本意ではないけれども、やっぱり 2050 年に向けて、ここは本当に誇りを持って進めようと思ってやっています。ただ、私、たまたまこの福島の先達山の担当になったんですけど、会社の方針、それから世の中のその再エネを普及させさせてこうっていういわゆる潮流ですね。この中で、やっぱりできるだけ意見を聞いて、できるだけやれることは会社に提案して、会社関係者にも提案して、こういう風にしたら景色もうちょっと良くなると思うんだとか、そういうのはやっていきたいと思っています。例えば完成した後とかそういうのも、当然関わる場面も、すぐなくなるとかそういうことも考えてなくて、やっぱり親しくなった人もいます。そういう人たちとぶつくと切れるのもなんだなと思いますし、やっぱりちゃんとお話を聞いてくれて、ちゃんと意見を言ってくださって、私たちが攻撃の的みたいな感じで対応しないで、ちゃんとこういう風にしてほしいんだって言ってくれる人の意見は聞いて、会社に意見を挙げて、やれることはもうやってこうという気持ちは前も変わらないです。だから、すごく貴重な意見もらったんで、頑張りたいと思います。引き続き。はい、以上です。

先注会・松谷

シュタインさんはずっと鈴木さんを現場に置いておくお考えはおありですか。シュタインさんが上司なんですから、鈴木さんを現場に残すっていうお考えはありますか。

Amp マルティン・シュタイン

(小声で鈴木氏に) はい? (と答えていい?)

Amp 鈴木

(小声でマルティン氏に) いや、タイミングを見てで。

Amp マルティン・シュタイン

もうそうですね。タイミングを見てでいいと思いますけども、しばらくはそうですね。は

い。

先注会・松谷

はい。じゃあ、次の質問に参りましょう。

参加者 13

今日は貴重な機会をありがとうございました。私、4月の上旬に三本木橋、市街地の東側からこの市街地に来る橋があるんですけど、そこから太陽があつて、もう1つ、山麓に太陽がありました。2つの太陽があるようでして、びっくりしました。検証するなら阿武隈川の東側からもやる必要があると思ったんですけども。私、林地開発許可証にかかる申請書、全部開示請求いたしました。そこで、県はちゃんと開示してくれました。ただ、事業者の名前、会社の名前だけは線塗りでした。そこに地質調査結果というのがありまして、そこには結果として、植生が、植物が生えているから現状では安定しているというふうに結論づけていました。だから、削ってしまったわけですから安定しなくなるのが当たり前なんですけれども、それを、AC7、Ampの方が見逃したんでしょうか。県は、どうも、見逃してしまったようで、許可してしまったようなんですが、やっぱり申請するに当たってはちゃんと見ていますよね。どうなんですか。

Amp 長谷部

木が生えているところを伐採しますので、そのままにすると、当然木が守ってくれたものがなくなるので流れてきます。なので、そこに対してきちんと造成の工事をして、以前と同様の土の硬さを作っていくというような形で計画してますし、それに基づいて施工していると、そういった形ですね。

先注会・松谷

ありがとうございました。

参加者 13

全然わかっていないということがよくわかりました。凝灰角礫岩なので、崩れやすいわけですよ、元々。だから植物をなくしちゃったら崩れていくわけです。

Amp 長谷部

だから崩れないように工事していますとお話しています。

参加者 13

だんだん崩れていきますので。

Amp 長谷部

だから崩れないように工事をしています。

参加者 13

撤退が1番の地域貢献だと思います。そうすれば、Ampの株はすごく上がると思います。

参加者 14

福島市の人間です。今日は貴重なお時間、どうもありがとうございました。Amp社さんに質問がございます。メガソーラー事業ということで、もう先達山に限らず、Amp社さん、日本全国に色々事業をやられていると思います。あるいは、もう世界8社くらいに、こう8カ国くらいってことは、世界中でもこういったメガソーラー事業って対応されてると思うんですけど、今までにそのメガソーラー事業というものを、例えば計画を取り止めした、途中で権利交渉をやめた、完成した上でやはり取り止めざるを得なかった、そういった事例というものがあるのか、あるいはそういった事例というものはストックされているのか。その事例があった場合、取りやめしたという決め手はなんだったのか。あるいは、廃止した、計画をやめた後の、その後の補償、整理、そういったデータがあるのであれば教えていただきたいと思います。

先注会・松谷

お願いします。

Amp 長谷部

いろんなところで、太陽光に限定でいいですかね。太陽光であれば、当然、まず土地を選定します、必要な開発許可を取ります、工事をします、できました、運転します。そのステージごとに問題はそれぞれ起きてるわけですね。その問題によっては事業の継続は当然検討しますし、さすがにこれはダメだと、例えばわかりやすいところで言うと、開発の許可が必要なので、こういうのが取れそうにないよねということであれば中断しますし、今のところ前例はないですけども、例えば、出来上がったけど地震でもうぶっ壊れちゃって、どうにもならんとか、そういったものがあれば撤退を検討するもっていうのはあると思いますけれども、今のところは、大きな工事が始まる前に撤退を決めたものもありますけれども、工事が始まった段階以降のもので撤退したっていうことはないかなという、我々の事業の中では、少なくとも日本事業にはないという風に認識してます。

参加者 15

こんばんは。遠いところからお越しいただきありがとうございます。すごいお疲れの中、

質問するの恐縮なんですけど、お二方、鈴木さんと長谷部さんにそれぞれ質問があるんですけど、鈴木さんから大丈夫ですか。先ほど質問で、その 2050 年までについていう環境に対するっていうのは SDGs だと思うんですけど、SDGs に関することは僕も興味があって、環境問題だったりっていうのに関心を持ってるんですけど、環境を守るために環境を破壊する、つまりソーラーパネルを置くために森林伐採をするっていうことについてどう思ってるのかお伺いしたいんですけど。

Amp 鈴木

よくないと思います。

参加者 15

ありがとうございます。次、長谷部さん、大丈夫ですか。先達山のソーラーパネルっていうのは、元々ラインが見えるくらいっていうのが公的文書で書かれていて、その中で、その法律の範囲内であるから問題ないっていう発言が、先ほどの鈴木さんがちょっとおっしゃっていたと思うんですけど、その他にも会社の問題に対しての責任の所在の不明っていうのが個人的にあると感じていて、大学で僕、法律を勉強している身として、なんか法律っていうのは、今回のように、法律の抜け穴を探して企業が利益を得たり市民と戦うための武器じゃなくて、社会秩序だったり、国民の権利保護のためにあると思うんですけど、なんかその個人的な質問にはなってしまうんですけど、もしよければ、法律に対してどのように捉えているのか。また、今回の問題としては、住民の感情っていうのが、価値観の違いっていうのが個人的に問題だと思っているんですけど、そういう法的な効力が及ばない分野でどのように向き合っていく予定ですか。

Amp 長谷部

まず法律に基づいてやっています。どんな事業も。事業活動と生活とかもそうですけど、法律ってあります。法律とかルールとか。今も学校に行かれているなら、学校のルールも守らなきゃいけないし、今までのところで色々あると思います。この発電所の建設工事に関してもルールありますので、ルール守ってやっています。そういった意味では、ルールを守っていればいいんですけど。なので、法律家としての答えとしては、ルール守っているから何がダメなのっていう風になっちゃうんですけど。それに答えたら、もうめっちゃめっちゃ簡単ですよ。今日来なくてもいいです。なので、それだけじゃないと思っているので、ここにも来ていますし、それは多分、鈴木とかマルティンも同じと考えていて、我々としては、法律にはこういう風に書かれているけれど、他に何かできることはないのかなとか、あと地元の方からこういった、これ他のこういう会でなくても、いろんなところでやっていまして、いろんな声を聞いて、できるものはこういうことであるとか、運用したりですとか、そういうことをやっています。なので、そうですね、これは我々が、

株式会社というのが一応そういったものを作って終わりとか、そういう風には思っていない、きちんとしたものをきちんと作ると。地元は大きなもの、我々のタイプはメガソーラーって言われている大きなものが主流にはなっていますので、当然関係者も多いです、その関係者には当然地元の方が含まれているという風に我々は考えています。地元の方々にも、こういった機会があれば対応して、きちんと意見をお話しするなり、意見を聞くようにして、事業を進めていきたいという風に考えていますし、これまでにそうになっていますし、これからもその姿勢が変わらないということはお伝えできます。

参加者 15

ありがとうございます。

先注会・松谷

じゃあ次の方をお願いします。若い声ですね。いろんな大人見て吸収して、真似するものは真似して、真似しないものは真似しないような大人になってほしいなと思います。

参加者 16

福島市から参りました。前回も参加させていただいたんですけども、なんか法律を守っていれば何をしてもいいという風にしか聞こえないんですね。おかしくないの。何も条例を守ってやっている、開発をしている、だから別に権利なんてと思っています。富士山の麓でもしこんなメガソーラーが立つって言ったら、みんな反対すると思うんですね。今回の吾妻山の麓、私たち反対なんですけど、福島市民なんですけど、全然知らされていなくて、誰の許可を得てそういうことができるのかと。なぜ 2025 年までに、山肌を削って、盛土をして危険な、せつかくろ過してミネラルがたっぷり入った森林を壊してですよ。それがリンゴ畑とか、私たちの福島っていうのは果物の王国ですね。そこにミネラルが少なくなってしまう野菜だったりとかリンゴとかができるようになる恐れもあるんです。それをどこに、口止めじゃないですけど、お金を出して。福島市って広いじゃないですか。私も福島市民で、西口からずっと見えるんですけど、薄っすらとラインなんかじゃなくて、ギラギラしてるし、がっかりしてるし、子供たちにこれ今後見せていくことになるのがすごく悲しいんですね。もう福島市民みんなあれを見るんです、今後。その責任っていうのは、もう知らないとかじゃないんですよ。私たちはそれを、子供たちも、その次の子供たちも、その山を見て何十年って過ぎさなきゃいけないんですね。そういう私たちの悲しい気持ちっていうのは全然無視じゃないですか。権利だから、開発して、投資して、それで、あとは売ってしまえば自分たちではない。そうではなくてですね、県にはそういう災害とか審査する部門がないと聞きました。じゃあこれ誰が、この大きいメガソーラーの責任とかそういうのを、またそれも法律に則ってとおっしゃるかもしれないんですけども、そうではなくて、なぜに 2025 年までにこれをしなきゃいけないのか、森を削ってまで、私たちの

大事な財産を削ってまでこれをしなくてはいけないのか。私は撤回してほしいと思っています。

先注会・松谷

ありがとうございます。

Amp 長谷部

これ、なんかお答えした方がいいですか。先ほどから申し上げている通りで、我々としても法律に基づいてちゃんとやっているから問題ないでしょうって言ってそこで打ち切るつもりはないです。なので、こういう場にも来ていますし、いろんな方の意見聞いていますし、その方々の意見の中で対応できることがあれば対応していると。その姿勢はこれまでやっています。そのようにやっていますし、これからも変わりません。なので、今後も必要に応じて意見をいただければ対応できることについてはやっていく所存ではあります。

参加者 17

先ほど原発事故のお話あったんですけども、福島県での期間困難区域ってありまして、たくさんまだまだあるんですよね。で、それほど社会貢献だと訴えるのであれば、そういう人が立ち入れない土地を利用して、そういう再エネを開発した方が、私は福島県にとっては1番の社会貢献だと私は思うんです。どうして、福島市内のほぼ全域から眺められるあの場所に建設したのか、決定的な理由を教えてください。

Amp 長谷部

ただ、あそこに計画をしたのは我々ではなくて、元々事業を計画していた人たちがいるんですね。その人たちから事業の譲渡を受けて、で、最終的に我々が事業譲渡を受けて、必要な許認可を取って工事をしているという状況になります。なので、なんでそこを選ぶのかって言われても、我々が決定したわけじゃないので、その人に聞き聞かないとわからないというのが回答になります。あと、我々としては、景観はもちろん大事、重視はしておりますので、いろんな方々のご指摘をいただいていますので、その指摘に沿って緑化の作業も前倒しして進めておりますし、今後も、今やっていることが、例えば木を植えますけど、木がだんだん成長してくるはずですけど、そうすると見栄えも良くなっていくでしょうし、それに足りなければまた追加でいろいろ対応していくように考えてますね。まず作って終わりという風には考えていませんでした。これからもお声がけいただければトラブルに対応していくと、そういった形になります。

先注会・松谷

決定的な理由はないってことですね。ただ人がやっているところ買ったからそれだけのこと

だっていう、なんかそういう理解でよろしいですか。結構大事な質問だと思うんですけど。

Amp 長谷部

土地は決まっていますので、そこで開発をすると。我々が決定した時には、今は太陽光に反対の声も結構上がっておりますけれども、4~5年前にこの事業について検討を始めた頃には、福島市の方もその原発の絡みがあって再エネ推進で結構応援してくれる方が多かったんですね。ちょっとその何年か経つにつれて、皆さんの意見も変わってらっしゃるんで、それはそれで我々としても認識はしていますし、我々もやりながらこういう開発はよくないよねっていうところであれば随時検討はしていますし、皆さんが色々考えて意見をそれぞれの段階的に意見をブラッシュアップされていかれているのと同じように、我々も開発の経験を通じて、過去の失敗を踏まえた上で、順次より良い開発ができるように、よりよい社会貢献ができるようにという風には考えてます。

参加者

貢献じゃないですから。社会貢献じゃないですから。この事業は社会貢献じゃないです。

先注会・松谷

次、ちょっと行きましょう。はい、次の方お願い。

参加者 18

昨日は現地視察、ご案内いただきありがとうございました。福島は原発事故後、分断と対立が色々あるもんですから、私はお2人と仲良くお話ししながら行きたいと思いましたが、やっぱり家に帰ってみて気になる点がいくつかあったので、ちょっとそれをお話したいのと、もう1つです。今日のご発言の中に、地球温暖化が進むと雨の被害とかたくさん大きくなるのでっておっしゃったんですけど、私の認識では、すでに地球温暖化はとんでもないところまで進んで、異常気象でいろんなことが起きている。もうこれからすることはメガソーラーでもなんでもなく、自然環境を守っていくことだという認識に、私はなっているんですけど、それについてお答えをお願いしたいっていうのと、あとはお願いがいくつかあります。昨日のご発言の中で、松谷さんについてやばい人っていう発言がありました。そのやばい人っていうのは、よく私も教えていたような若い学生、女性の学生、女学生たちが言っていたような、このケーキやばいっていう称賛の言葉でしょうか。どうなのかをお聞きしたい、お聞きしたいと思っています。松谷さん、後から私ももっとやばい人って言われていましたけど、そのやばい人を最後に言いたいと思います。撤回してください。松谷さんに対して屁理屈って言ったことは、ここにいるみんなが認めません。松谷さんよのように、東アジアのいろんな問題を研究している一流の研究者がこの問題で立ち上がって、プライベートタイムを削ってこの問題に取り組んでいるんです。だから、ホーム

ページでご覧になると分かるように、普通の反対派の団体とは違うことやっていますよね。これ怖いことですよ。これが広がっていけば、これからの皆さんのその活動っていうか営業に大きな影響を与えるんですよ。その力を持っているんですよ。怖いと思います。それから、昨日の視察をした私たちにはそうでもなかったんですけども、前回の視察の女性だけのグループに対しては、かなり威圧的だったっていうこと、これ聞いたことなので事実かどうかはまだ確かめていませんけど、ちょっと聞きました。それは女性だけだから馬鹿にしたんでしょうか。だとしたら、私、フェミニストなので、ジェンダー問題の研究者なので、断固これは抗議したいと思っています。その中にも国際的ジャーナリストが入っていますので、皆さんはもしかしたら地雷踏んだかもしれないということもある。

Amp 鈴木

はい、ありがとうございます。まず、やばい人の意味なんですけど、私個人的にはですね、松谷先生の行動力、それから調査力、あと情報の発信力ですね、あとこれだけの人を集められる力というのは大変すごいものだなと思って、立場が違ったらですね、良かったなと思う時もあります。屁理屈というのは、言葉を選ばず、本心で言うと屁理屈だなとは思っていますけど、改めまして屁理屈という言葉を使ったことに関してはお詫びいたします。屁理屈という言い方ではなくて、もうちょっと言葉を選ぶとですね、やっぱり揚げ足取りに来るとか、ツッコミが重箱の隅を突いてくるような内容が多いとか、そういうのは正直感じますね。ただ、これはなんていうか、すごく今率直に感じているお話なんですけど、前半の松谷先生とのお話は、私たちの会社の批判だったり、私や長谷部やマルティンへの個人的な攻撃がすごく多かったと感じます。でも今、後半皆さんとお話していると、すごく生産的な話ができていて、そういう意味で言うと、やっぱり皆さんとこうやって話が直接できるのはありがたい。松谷先生ももうちょっと、どうしてほしい、こうしてほしい、こういうことできないかっていう前に進む議論をしてもらえると、私の口から屁理屈とかやばい人っていうのが出なくなるのかなという風に、ちょっと立場からするとあまりいい発言ではないんですが、そう思っています。それから、前回の視察の中で威圧的というご意見をいただいた件についてですけども、これはですね、シンプルな理由がありまして。西口のロータリーまで迎えに行ったんですよ、皆さまを。迎えに行った時に、いきなり後ろから何も言わずに動画でカメラを回し始めたんです。私の顔に向けて私ちゃんと言ったんです。私、家族も子供もいるんで、勝手に私の顔写した動画はやめてもらえませんかって要望しました。はい。それがもし威圧的な言い方という風にその方が感じたのであれば、それはお詫びいたします。ただ、私も1人の人間なので、面白おかしく、私は皆様をご案内しようとして一生懸命やっているのに、後で動画をアップするつもりかのようにドキュメンタリー調にそんな動画を撮るのは正直やめてほしい。結構福島好きなんですよ。あかつきなんてうまいし、農家の人にもらったり、米もらったりしてんですよ、仲良くなった人からは。だけど、やっぱりそういうことをやられると、どんどん嫌になっていく。これ

は正直な気持ちです。私だって人間ですから。もう1つ。現場に着いた途端に皆さん一気に矢継ぎ早に私に対して攻撃的な口調で一気に畳みかけるように質問してきました。これは正直、女性だったんですけれども、ものすごい恐怖感を感じました。なので、遮りました。やめてくださいと。お1人ずつお話してもらえますかっていう風に意見をさせてもらいました。ストレス体制は強いですが、やっぱり批判的な目を向けられて、私はやっぱり、あの時もずっとですね、23日から24日、25日。26日土曜日だけ家に帰って、27、28、29だけ家に帰って、30日また来て、その30日の時に、毎朝4時半に起きて、毎朝12時半に家に帰っているんですね、ずっと泊まればいいんですけど、色々家庭の事情があります。先ほどね、ちょっと我慢できなくて騒いじゃった子もいたんですけど、うちの子供もそうなんです。そういう状況の中で、それぞれ事情があるんです。私も人間なので、やはり私が悪の根源かのように、そういうようないきなりの写真の写され方とか、集中的に罵声を浴びせるようなことをされたら、それは威圧的な口調になるのは理解してほしいんですけど、反省します。はい、以上です。

先注会・松谷

先達山の見学条件というのは Amp 社から通知されていて、その注意事項の中に、指定以外のところで撮らないでくださいと。撮ったら、色々と厳正に対処しますと。権利侵害というような形で、あと使用しないでくださいって、ま、ちょっとまたこれも聞き方によっては威圧的に感じる。これを見せられて行くわけです。我々はやっぱりその防犯上をやるって言うても、昨日、見た感じではそんなにそこまで、確かに気遣う場所は撮らないし、なんか5日前までに名前言って居住区も明かしてから見学人じゃないと認めないとか、あと、認めた参加人数は、最初は報告が福島市に行くって言うていたんですけど、そういう必要あるんですかとか。1回8名までってなんか少ないですよとか。もっと住民に広く呼びかけたらいいじゃないですか。みんなに見てもらった範囲で、私たちだけに見せたらいいって話でもないんで。こういうような交渉したんですね。そしたら、いや、そんなこと言っているのはあなたたち3人って、ここにいる3人だけですと。福島市民は誰も文句言っていないって風にならね、長谷部さんからご回答があつて、他の方はね、異論ないって言われています。皆さんがきちっと見たいですという風に思って、きちっといつでも連絡してくださっていいって言っていますから。本当に私たちね、先ほど言った、別にいいんですよ。本当にね、●さんが応援してくれてすごく嬉しいんですけど、こうやってサンドバッグにみたいなのはどっちなのかなって言うたら、こっちだってそれは言いたいこと幾らでもあります。でも、私たちがやることじゃないんですよ。皆さん市民なんだし、皆さん権利あるじゃないですか。だって話聞いてくれるって言うているわけですから。私たちも頑張ってるんですけど、本当に私たちだけでやる話じゃないし、皆さん関心あったら皆さんが直接 Amp 社にお願いしますって、うちの町内会で、うちの団体でって。そうなるのが地域と共存している事業者だと私は思うんで、こういうこと、いつ

までも私たちに期待してですよ、この会場準備し、こういう場所を作る、そして何か情報を公開する。そうすると、Amp 社から私に攻撃が来る。いろんな住民からも私の方に返って何か疑問とか苦情が来る。私は本気でこじ開けないと、今まで答えていただけなかったんで。今日もそうですけど。いや、言っても非常にバイオレント。攻撃的？いや、さっきほど誰か言っていましたように、抱えているものが違いますから。背負っているものが違いますから。本気で守りに行く。家族守りに行くっておっしゃったでしょ。同じ気持ちですよ。ですから、私は別にバイオレントとかやばいって言われたぐらいでなんとも思わないし、それが蔑みであっても全然気にしません。ただ、本当に皆さんに言いたいのは、皆さんはどうなんですかと。皆さんがここをこじ開けてみたかったら見ればいいし、聞いたかったら聞けばいいし。私たちじゃないと出せない、そういう市になってんだな、自然と、こんなこと言われてね。誰も反対なんかしてない。誰も意見言っていない。たまたまこんな見学に条件つけてくるようなやつは、たかが3名だけだった。それ非常に私、屈辱的に感じて、福島市民そんなやわじゃないよって。信じています。それだけ私から言わせてください。

参加者 18

カナダと違って、日本は山が急で、岩が火山灰からできていところが多いから。雨量も多いってことで、崖崩れだったり土石流だったり起きやすいんです。それを木が保湿して、なんとか大きな事故が起こらないようにしていて、例えば熱海の土石流が起きた時、その誰が責任を取るかって言ったら、許可した県だとか誰々だって、結局誰も責任取らないで終わってしまっているんですけれども、大体にして、県がどこの専門家の意見も聞かずに書類を通してしまったのがすごく大きいと思うんですが、Amp 社の中に 20 人か 30 人いると思うんですが、やっぱり土木の専門者がいないって。日本のような特殊な山を抱えてるところに、メガソーラーが儲かるからってでっかくやっていますけど、そういうのはこれから、もう国が原発で食い物、そして再エネで食い物になってるのは福島じゃないかと思っていますけども。例えばメガソーラーでなくてもソーラーシェアリングだったり、環境に負荷をかけないやり方は山ほどありますから、ちょっとそのメガソーラーが環境のためにやってるってのはちょっと撤回していただきたいのと、今後土木の専門家を入れるつもりがあるのか、または今後日本の山をどれだけメガソーラーにしようとしてるのか、その予想をお願いします。

Amp 長谷部

まず、土木の専門家というか、これも一般論なんですけど、専門の仕事を頼む時に社内にその専門の人を社員として雇うという方法もありますし、外部の専門家に仕事をその部分お願いするというやり方もありますので、うちにその専門家がいらないからダメだとか、そういう風に言うのはちょっと乱暴という話になります。なので、必要に応じて専門家が社

内で取った方がいいということであれば。

参加者 18

今必要だったんです。これから阿武隈山岳、300 か所くらいメガソーラーの計画があるんじゃないですか。必要だったと思いますよ、土木の専門家。

Amp 長谷部

前回もお答えした通り、もう福島県で今開発を予定している部分はありませんので。特に現時点でその専門家を雇う必要性は感じておりません。

先注会・松谷

では、次。お願いします。

参加者 19

先ほど申し上げたんですが、ちょっと足りなかったことがありましたので、申し上げたいと思います。私たちの市民の方が知らないうちに工事が進められたわけです。先ほど申し上げましたように、私たちの誇りとする、宝とするあの山が大きく棄損されたという感情なんです、私たちは。それで、先ほど皆さんにも大切なものがありでしょうという風にお伺いしましたが、それで、その大切なものは、自分の家とか庭とか家族とか色々あるかと思いますが、もしその大事なものが棄損された場合にはどういう風に皆さんがいたしますか。おそらくそれは現状回復とか、それが不可能であれば金銭に代えてお金で解決するとか、だと普通は思うのですが。それで、私達は、あの宝の山がそういう風にされたのですから、まず現状回復をやってもらいたい。私たちは■できませんから、むしろお宅の方でお金を出してもらって、■もらいたいという風に思うわけです。いかがでしょうか。

先注会・松谷

お願いします。

Amp 鈴木

まず、工事中止する理由がございませんので、その計画はございません。一方で、工事を進める中で、これは本当に再三申し上げているんですけども、やれることはやっていく。意見を聞いて、皆さんからの要望でできることはやっていくっていうつもりであります。これは前回の会でも申し上げましたし、今日も、あと視察の時にも申し上げますけれども、やっぱり原状回復ってなかなか難しく、今ここまで進んでいるので。ちゃんと完成させてちゃんと運用していく方法、そして緑をもっと多くしていく方法とか、いろんな方法が

選択できていると思っていて、それをちゃんと皆さんの意見だったり、市や県やいろんな行政、いろんなところの意見を聞いて、社内で調整しながら関係者をまとめて、こういうことやった方がいいよ、ああいうことやった方がいいよっていうのを発信しながら、福島市民の方がこれ以上、苦痛になるところが増えないように、和らげるように、やれることはやっていくっていうことはこれからも変わらないので。そういう意味で言うと、中止という概念は私たち持ってないんですけども、そういう意味で寄り添うということで、この会にも来ていますし、意見を聞いてやれることをやっていくというつもりであります。

参加者 20

福島市の●と申します。1 回目の質問の続きで、質問じゃなくて感想なんですけどいいですか。先ほど長谷部さんが来る必要がないのに来ているんだっていう話何回かおっしゃいましたけども、何かそれをね、福島の人間に俺たちは情けをかけてやっているんだ。ありがたく思えとそういう風に聞こえますね。私たちはここで生まれて、ここで育って、ここで死ぬんですよ。あなた方はなんか本当、他人事ですね。だからなんかあったらすぐ逃げると思います。あと鈴木さん、松谷さんが先ほど自分の都合のいいようになんか聞いてるとか言っていましたけども、それを言うだけのことはあなたはしてないですよ。してないですよ。もっとちゃんと答えてください。あとは責任者をマルティン責任取ってくださいね。逃げるんじゃないよ。失礼しました。

Amp 長谷部

再三言ってますけど、別に来てやってるとかそういうつもりで来てないですからね。皆さんの意見聞くために来て、意見は意見として聞きますと。できることについては対応しますという風に申し上げております。あとはもう、色々な意見はあるのも承知してますけど、お互い話をするのに、なんですかね、人の嫌がることはしなくてもいいじゃないですか。先ほど申し上げた通りで、あの人に何かお願いする時にこれをやれって言われるのと、これやってくれませんかっお願いされるのって受け取り方が違うと思うんです。あれをやれよ、これをやれよ、お前らちゃんとやれよとかなんか偉そうに言われても、こちらもやはり人間ですので、なんやねんって思って、やっぱりいい人に対しては、丁寧に来てくれる人に対しては協力してあげたいなと思いますし、偉そうに来る人に対しては、何でお前に言われなきゃいけないんだと、そういう風にやっぱり感情なりますので、やっぱり人間同士ですので、きちんとそういうの必要な、そういう、なんですかね、悶着を起こさなくてもいいじゃないですか。なので、意見は意見として、そういうのお互いに礼儀正しくやり取りできればいいのかなという風には考えてますし、我々はそういう姿勢で今思っております。

先注会・松谷

シュタインさん、いかがですか。なんか普通下の人が答えるんじゃないような重要な問題が下の方から答えてくるっていうところがすごくこう気になるので。せっかくいらっしゃったんですから、本来シュタインさんから答えていただきたいと思います。

Amp マルティン・シュタイン

一緒ですね。逆にこういう本当に個人的な話を聞いて、すごく、我々の社員の皆さんがすごくなんて言うんですか。集合だけではなく、ほんとに個人としたら頑張ってます。

先注会・松谷

はい、わかりました。今長く寄り添うって言っていたんですけど、なんで怒ってるかって、苛立つかって。だって前回いらっしゃった時に、今これ映してますけど、自分たちは転売するのがいい条件あったら売るってはっきり言ってるじゃないですか。ですから、こういう風に言った後にまたよりそうとか色々言われても、本当にずっと付き合ってた消耗するだけなんですよ。苛立ちますよ。何も変わんないし、こういうこと積み上がってないじゃないですか。転売するっていう前提で、転売した先に責任取らせるようにどうするのかとか、どういう風に仕組みやってるとか、もうそういう話しない限りまた同じようなこと繰り返すので、苛立たない方がなかなか難しいと思いますよ。次の方どうぞ。

Amp 長谷部

ごめんなさい、ちょっと待ってください。また勝手なことを言っていますけど、一般論として発電所を売る可能性はあるという話でお伝えしています。だから転売が決まっているからどうこうとかそういう話は一切しないので。また誤解を招くような発言もしているので、そういったところは多分、

先注会・松谷

Amp 長谷部

だから、先ほど申し上げた通り、人が喋ってるときに喋らないでください。

先注会・松谷

終わりましたか。

Amp 鈴木

松谷先生、ちょっと話してもいいですか。すごくシンプルな言い方をすると、松谷先生の言葉ってあんまり入ってこないんですけど、私、松浦さんと松浦さんの奥さんの言葉すごく入ってくるんですよ。昨日も、午前中奥さん、午後松浦さんと一緒に回って、色々と松

浦さん教えてくれるんですね。この木じゃ、ダメだ、この植え方じゃダメだ。奥さんも色々教えてくれた。本当にわからないことを教えてくださったんで、これやっぱりフィードバックしてちゃんと検証しなきゃって思うんですね。なんで松浦さんの話は入ってくるけど、松谷先生の話入ってこないんだろうと思ったら、松浦さんはやっぱりこうした方がここ良くなるって言ってくれているんです。でも、松谷先生は本当に人を追い詰める言い方をするんです。長谷部もそうだし、私もそう。マルティンも。今日マルティンは日本語できますけど、やっぱりごめんなさいね、ちょっと方言入ったり、早く喋るとやっぱ聞き取れないと思うんですよね。それでも一生懸命耳を凝らして、一生懸命答えようとしてるんだけど、やっぱりどうしてもね、なんか揚げ足を取るような発言が多くて、長谷部も、やっぱり言葉が、言語は豊富なので、弁護士やってるぐらいなんで、やっぱり松谷さんも張り合っちゃうんですよね。これだと話が前に進まないんですよ。いや、現場は進んでるんで、どういう風にどういうことをやっていけばいいのかって意見が欲しいんです。中止するつもりはないので。はい。だから、そういう意見を松浦さんからいただいたと思っているんで、やっぱりフィードバックして、早く緑になるように、どうすればいいのかっていうことは一生懸命これからも考えていって調べていきたいと思っており、そこが昨日私はマツウラさんご夫妻と一緒に回ってすごく良かったなと思っている事例です。

先注会・松谷

いいですか。じゃあ、転売しているのがまた勝手なこと言っているっておっしゃったんですけど、この朝日新聞の報道されている通り、Amp はこういう風にですね、色々と権利、売電の権利、実際こう収益の権利を他にもう売りましたと。それがZい、先ほどからお見せしてますけど、この会社にはほとんど売電した後の権利売っているんで、自分たちは実質的なですね、もう投資はZ エナジー社になっているんだという風に、こういう報道もなされています。ってことは、もうほとんど実際自分たちはここにそれほど関わりもないし、これって一般的に転売したっていう風に言うのと何か違うんですか。

Amp 長谷部

事業の譲渡という意味では、転売したという説明でも間違っていないですけども、我々、引き続き事業の事業者という、事業者はAC7ですけど、事業者に対して出資をしてるっていう、出資持ち分は持っています。ただ、引き続き AC7 合同会社を運営管理する立場にいますので、その立場で引き続き、この発電所の運営管理に、要は工事がうまくいくようにですとか、発電所が出来上がってからも問題がないよう注意してみていくですとか、何か問題が起きた時には速やかに対応するですとか、そういった責任をきちんと果たしていくと、そういう立場で今来てます。

先注会・松谷

これ、完成した後もずっとアンプ社は管理業務として私たちとこうして向き合い続けて、今後 10 年、20 年やっていくっていう、そういうお話ですね。

Amp 長谷部

なので、契約が続く限り、我々が AC7 合同会社の運営管理する立場にいる限りは当然やりますし、

先注会・松谷

限りってなんで限度を作るんですか。

Amp 長谷部

いや、だから契約上そうなっているので。

先注会・松谷

では何年、何年後ですか。それ、

Amp 長谷部

契約を切れちゃったら、うちがやりたくてもやれないじゃないですか。

先注会・松谷

ですから、去る可能性はあるんですよ。望んでも Amp 社が、こういう風になることですよね。

Amp 長谷部

可能性として 0 じゃないですけど、それが今起きるか。だから明日雨が降るとかそういう話と一緒に、世の中絶対ってないんで。

先注会・松谷

こちらの、じゃあ Z エナジーが AC7 社の実質的な支配者っていう風に理解してよろしいですか。

Amp 長谷部

それも誤解があるので、前回説明した通りで、AC7 合同会社から収益、利益が出ますよね。電気売って利益が出て、その利益を享受する権利を Z エナジーが持っている。そういった形になりますので。

先注会・松谷

それって一般的に実質的支配者って言うていいんじゃないですか。

Amp 長谷部

実質的支配者の定義と、お金を、経済的利益を享受するものという意味では全然話が違います。そこは別に法律の話ですので、ここで議論する話ではないかと。

先注会・松谷

はい。じゃ、Z エナジーにその権利を転売した時はいつだったんですか。

Amp 長谷部

2 年ぐらい前ですかね。はい。ただ、別にそれをお答えする義務もないですし、そもそもその話って、その事業の、皆さんの懸念されている景観ですとか、工事ですとか、その生活関連とかと関係ない話ですので、これ以上そのお答えするのは時間の無駄なので、次にされて、

先注会・松谷

この事業に 1 番出資して 1 番リターンを得る人について、その会社について知りたいのは、福島住民には関係のない話だと、そうおっしゃりたい？

Amp 長谷部

関係ないのではなくて、皆さんのご関心があるのが景観ですとか、工事ですとか、そういったところですので、という風に伺ってますので、この話をした方がいいんじゃないですかと思って出してるような感じです。

先注会・松谷

でも、この会社の投資のお金がなかったら、この事業は回らないんですよ。

Amp 長谷部

なので、別にその他の会社の話をしたいのであれば、その会社に直接問い合わせればいいですし、それを我々が答える立場でもないですし、時間をここに使うのももったいないので。質問の方も並んでますし、次に行ったらいいんじゃないですかね。

先注会・松谷

Z エナジーに問い合わせるって話ですね。じゃ、次の質問参りましょう。

参加者 21

先ほどの続きなんですけども、先ほどですね、薄っすらと見えるのはと、ところによってはこの風な話だっという風に回答があったんですけども、市なんかでもですね、騙されたような話をしてるわけですよね。一般的に言いますと、あの表現は、どこからでも見えるけど、見えるところが一部から見えない、そういう風な捉え方にはなんないですよね。どこか、福島市内、大方のところ、あるいは先ほどお話出ました伊達市とか、伊達からもう見える山なんですよね。そこから見えるんですよね。それとですね。コナラを植えて、先ほど返答なかったんですけども、何年ぐらいでどういう風な状況になるのか、その辺をお聞きしたいんですが。大体、例えばですね、伐採して新芽が伸びてきて7、8メートルぐらいの高さになるのにも5年から10年かかるわけですよね。ましてや、あの土地は表土取られちゃっていますから、栄養もない土地ですよね。そういう風な土地でいつ頃どのような状態になるのか、その辺をお聞きしたいんですが、よろしくお願いします。

Amp 鈴木

一般的にコナラはですね。3年から5年の間で3.5メートルから4メートルぐらいに伸びるという風に聞いております。今、表土の部分が削ったところで苗を植えてもってというお話もいただきましたけれども、実際、先週と今週の生育状況の違いが、あったかくなってきたっていうのもあって、葉っぱが結構開いてきたなっていうのは見て、直視して感じました。先ほどもちょっとお話ししたように、松浦社長の方からも、これじゃダメだよ、こうじゃなくてこうじゃなきゃダメだよっていう風にやっぱり教えてもらうこともすごく大事だなと思ったんで、やっぱり成長してなんぼだと思っているんで、そういうところは意見として取り入れて情報発信して行って、早い段階でうまく育ってくれるようにしたいなという風に思ってます。

先注会・松谷

大体何年ですか。

Amp 鈴木

3、4、5年ぐらいすると、だいたいその植えたところの景色が変わってくるのかなという風に直感的には思ってますけれども。ただ、いろんな知恵とか知識っていうのを取り入れていかないとダメなんだなっていうのは、やっぱり昨日松浦さんが本職なので、そういうのを聞いててすごく感じました。

先注会・松浦

鈴木さんと長谷部さんのお話、発言の中で、やれることはやっていくと。私の話を聞いてくれているみたいな話を言ったんですが、やれることを私が発言して、これからずっと私

もこの地にいますので、言ったことをやっていただけるかどうかはまた別として、いろんな提案をしますけども、その提案の中でやれることをやってってくれるっていう認識でよろしいですか。

Amp 鈴木

私の役割って Amp のやっぱり現場の担当なので、例えばそういう意見をもらった時には会社の中にそれをフィードバックして、専門家がこういう風に言ってるよっていう話で、それをやっぱり ■、Z エナジーとかにもこういう風にしたい方がいいって提案もらってるよっていう話はできるんですよ。その役割だと思っているんです。なので、そこは引き続き、私が担当でいる以上は、やっぱり松浦社長とはお話できるようになっているので、引き続きやっていきたいと思います。

先注会・松浦

先ほど質問の中で、5、6年で成長する3メートルなにかがして言いましたが、あの土壌で3メートルとか5メートルは絶対に見込めません。今までやってきている中でも、あの状態で緑化してそこまでなったという事例を見たことはありませんし、そういう指針も多分ないはずです。あの状況で森林になるとおっしゃって、自信持って言っていたのがちょっと印象的で。表面しか見ないでうわべの知識で考えると、あれで森林になるっていう確証は得られないと思う。だから、福島県のこの、林地開発の手引きの中にも、必要に応じ、植物の生育に適するよう表土の復元、あと客土等の処置を講じ、森林機能が早期に回復、発揮されるよう、地域の自然的条件に適する原則としてそれぐらいの樹高1メートル以上の木を植えなさいと。法令に反してない、県に言われた通り本数植えている、高さも植えてるとおっしゃっていますが、ここの1番冒頭の、表土の復元、客土、まだなされていない状況で森林に戻そうっていうその発想は間違っています。なので、絶対ありえません。だから、その辺をこれから利益を得ようとしている利益額から1億でも2億でも出して森林に復元しますと、ここで明言していただきたい

Amp 鈴木

意見として、やっぱり専門家の方の意見はすごくやっぱり参考になる。これはもう正直に申し上げました。昨日も今日もですけど。これを再三申し上げている通り、社内及び投資家、関係者に発信していったって、こうした方がいいという風に考えているってことは、発信するのは実際の役目だと思っているんです。ただ、今松浦社長が求められるような約束するっていうことは、ちょっと私の範疇を超えていて、私ができることって、やっぱり皆さんから聞いたこと、今の松浦社長のご意見もそうだし、他の皆さんのご意見もそうなんですけど、いや、これは取り入れたいな、取り入れたら良くなるなっていうことはシンプルに情報発信していったって、関係者に。やれることはやっていくっていうのはずっと変わらない

いです。

先注会・松浦

はい、次の方。お願いします。

参加者 22

また恐縮なんですけど、私が1番心配なのは2号調整池なんです。あそこが万が一決壊したら、下に人家があるわけですから、勾配が急ですから。まして先ほどのお話していただいたように火山灰ですから、パネルと一緒にものすごい勢いで落ちてくると思う。雪崩のように、もしかしたら。そういった時にどうやって下の命を、住民の命を守るのか。長谷部さんや上の人達はね、法律守るっておっしゃっていましたが、それは立派です。しかし同時に、法律を守ると一緒に人の命を守るのもすごく大事なことで私は思うんですよ。ですから、もし決壊した時、どのようなこう、それを防ぐ手立てがされているのかなと。みんな逃げろでは、これはもう無責任なんです。

Amp 鈴木

2号調整池の流末は金堀沢という沢になってまして、それがアイリスの辺りで天戸川に合流するような形になるんですけど、天戸川まで入ってしまうと結構川幅が広いんですけど、金堀沢自体はすごく川幅が狭いんですね。その民家のあたりを通るとき、特に狭くなってるんですよ。そういうこともあって、調整池の容量というのも非常に大きくなっている。ちょっとお話として、ここで話していいかどうかなんですけれども、その対象地区の方々に対しては、その調整池が大雨によって満水になる直前ではなく、もう少し前の段階的に物理的な装置を使って警報が発報されるような仕組みをシステムとして構築し、それを対象地区の住民の方々に、いわゆる緊急連絡網みたいな形を構築してやっています。今現在ですね。発電所が完成したあとですね、その内容を更新したりして、これも市と県、行政にも共有しているものになるんですけども、万が一のことが起こった時の対象方法って、極論言くと、そこから避難するしかない。そこから避難するっていうのが最終手段だと思ってるんです。

参加者 22

途中で大きなね。砂防ダムみたいなものは作らない？

Amp 鈴木

途中でですね、いくつか、布団籠っていうのわかりますか。じゃかごのものは作ってありまして、急激に流れが襲ってこないような防止策というのはすでに実は取っていて、対して、その調整池の、本当に大雨がずっと降り続いて、調整池で吸収しきれなくなって、洪

水吐から吐水が始まるっていう前に、住民の方、対象住民の方が避難できるような体制っていうのを、物理的な形で、ちょっと IT 的なことも取り入れながら取り組んでいます。ちょっと内容に関しては、非常に細かいところというか、中心の方々と厳密に打ち合わせしながらやっている部分もあるので、ちょっと差し控えます。

参加者 22

それで住民の安全を守れると思ってらっしゃるんですね。

Amp 鈴木

はい、もちろんです。

先注会・松浦

はい。じゃあ次の質問よろしくお願いします。

参加者 23

すいません、手短に。2つあるんですけれども。1つ目が、今日、専門家の柴崎先生とか鈴木先生とかあるいは松浦先生とかいらっしゃっているんですけれども、そういう専門的なことにぜひちょっとイエスとか No とか答えていただきたいなっていう風にやっぱり思うんですけれども。例えば、東芝プラントさんですとか奥村組さんを次回の住民説明会に呼んでいただくことは可能でしょうか。それが1つ。それから2つ目は、これはマルティン・シュタインさんにお伺いしたいんですけど、今回の先達山の件で、地元貢献という名目でどんなことが1番私たちのこれは立派な地元貢献だと、1番誇れるプロジェクトは何か教えてください。

Amp 長谷部

1点目が、奥村組との東芝プラントが出席するかどうかっていう話ですけれども、これはもう正直に申し上げますけれども、松谷さんから各社に非常に攻撃的なメールが飛んでるんですね。なのでこの人危ない人だなという判断をされていますので、あくまで出席するかどうかって協力の話じゃないですか。先ほども申し上げた通りで、偉そうに命令されることと、お願いだから、ちょっと繋いでくれないのか。という頼み方によって人って対応が分かれるんですね。なので頼み方が悪かったと思ってください。

Amp マルティン・シュタイン

はい、そうですね。最大のもちろん電気が福島市、福島県の中で増えること、それを皆さん使えるっていうのが一つ目。その後、もちろん税金の方で固定資産税のメリットがあります。

先注会・松谷

固定資産税っておいくらぐらいになるんですか。

参加者 5

固定資産税。今、山林の土地の場合、ほとんど資産税と課税どのぐらいされるかっていうと、ほとんどないんですけど、今パネルの敷設をされていて、パネルの敷設が終わってから雑種地に変わりますので、その雑種値の算定を市がしに来ます。なので、今固定資産税がいくらかというのは、答えで言うとは決まってないですけど、一般的には山林地目だった時の固定資産税よりも 10 倍から 20 倍に変わります。

先注会・松谷

はい、じゃあ次の質問お願い。

参加者 24

現場見学の際に何かに載ってなかったと思うんですけど、平日で行われたと思うんですね。平日だと学校があって参加できないっていうので、今度は土日、週末に行ってほしいなというお願いです。可能でしょうか。よろしくお願いします。

Amp 長谷部

もちろん、皆さんが参加しやすい日程とかで調整しますので、今回はこの会に関しては 30 日と、昨日 5 月 9 日という風に設定させていただきましたけれど、この会以外にも、他の方々からの視察のご依頼とかがあったりですとか、あとは報道陣の方に公開したりですとか、そういうのをやっていますので、そこはスケジュールを調整した上で皆さんに参加していただきやすいような日程はこちらとしても調整しようという風に考えてます。

先注会・松谷

実現してくださるってことです。学生のために。

Amp 長谷部

そうですね。もちろん。はい。いろんな方に見ていただいて、いろんな方に意見を頂戴できれば。

参加者 25

昨日、現地視察に行ってきた松浦です。昨日、現地の方に行ってきたして、本当に大規模な自然破壊が行われていると。それにがっかりしたというのは、長谷部さんと鈴木さんの

方にはお伝えしました。その上で、もう開発がされてしまっている、中止はしない、そういうお話を受けたので、せめてこの山を現状に近い形で戻してほしい、そういうお話もしました。その上でのご提案です。あくまでも、ソーラーパネルをはめたああいうメガソーラーを広げてほしい、それを認めているというお話ではなく、中止はしないという前提だったので提案をさせていただきました。その上で、Amp 社さんをお願いしますということでお2人に伝えたんですけども、あの自然破壊は福島だけじゃありません、日本全国なんです。それで、福島はこうやって Amp 社さんとお話をさせていただいて、意見も出させていただいていますね。こういう意見を受けた上で、日本の中でこういった自然破壊をするような乱開発は行わないでください、それはお願いしました。そのことに対して、もう1度皆さんの前でお答えいただきたいと思います。

Amp マルティン・シュタイン

はい、我々。もちろん自然関係、考えてそういう風にやります。

参加者

撤退してください。

Amp 長谷部

先ほども申し上げた通りで、我々としても、日本の事業を始めた2016年当時と今とで知見が変わっていますので、これまでの経験はいいものもあれば失敗した経験ももちろんありますので、そういった経験を踏まえて、より環境負荷の少ない再エネの発電所ですとか、そういった貢献していくような形で開発を進めていくという風に考えております。

参加者 26

長丁場の中、お疲れ様です。国際学部で今勉強している●と申します。私は、正直、国際学部で勉強している者として、その鈴木さんのおっしゃられていた2050年までにSDGsの葛藤というか、環境を守ることと、また発展させていかなければならないことの、そういうことも色々考えていたので、なんか今回の話し合いはどちらかというと中立の立場で聞かせていただきました。その中で、それを踏まえて、なんかこの話し合いがさらに生産的なものになるために、さらにより良くなっていくために、なんか私たちが改善できることとか、あとはどのような点を、何が必要か、なんか考えがあればお伺いしたいなと思いました。

Amp 鈴木

やっぱり先達山に関してはまだできるという風に決まったわけではないんですけども、私個人的にはですよ、まずは上の三角形2つをなんとかしたいと思っています。雪が降る

と真っ白になって、もうちょっと、7、8、9月になると緑が増えるんですよ。あれ、芝の緑なんです。芝の緑と木の緑って違うじゃないですか。だから、あれがとても目立つんですよね。で、パネルって正直黒いんで、朝はよくわかんないです。周りと同化して正直。昼ぐらいから目立ち始めるっていうのもあって。本当にこれは、その、さっきのこの話もそうですけど、上の三角形もそうなんですけど、なんとかしたいと思っていて、実際、現在声を上げています。社内、他の関係者に、ここ、こういう風にしたいっていうのは。ちょっとまだ決定事項ではないですけども、引き続きやっていきたいです。

先注会・松谷質疑応答は、話し合いを生産的にするためにどうしたらいいかっていうご質問じゃなかったですか。

先注会・松谷

すいません。やっぱりこの話し合いをちゃんとするためには、個人的に思うのは、この今日やった午後の部みたいな話し合いがいいと思っています。私はそう思いますね。

Amp 長谷部

話し合いなので、当たり前ですけど、人の意見を聞く、それに対して答える、それができないとやっぱり話し合いにはならないと思っているんですね。先ほどからも申し上げております通り、松谷さんて、そういったところの、苦手なのかわざとやってるのかわかんないんですけども、対応をしたいと言います。お前は どう 思っ て ん だ っ て メール が 来 ま す。メールを返しました。そしたら、なんか都合が悪いといつも意見をスルーされて、あんたとは議論にならないとか言って逃げられちゃうんですけど、そういう姿勢だとやっぱり対話にならないんですね。やっぱり相手の話を聞く、それに対してこういう風に思ってるって伝える、そういう関係でやっぱりやらないと建設的な議論というのはできませんので、我々そういうつもりで、まだどなたの方のどんな意見でも聞くつもりでありますし、なので、皆さんの方もそういった姿勢で、我々の方に意見を聞いて意見を言うなり、我々の意見も聞くなり、それについてどう思うかお伝えいただければ、そういった形であれば建設的な議論を進めていけるのではないのかなという風に考えています。

先注会・松谷

ありがとうございます。ですから、ここにいらっしゃるんで、私たちが主催しないで、もう週ごとに、週ごとにこういう会 Amp 社さんで開いていただくなり、1ヶ月ごとに開いていただくなり、今までそういう提案、福島市民にしたことあるんですか。

Amp 長谷部

これは元々の話で、1月に松谷さんが来られた時に、そういうお声があるので、やります

よというか、住民説明会をやりますよと言ったら、お前たち信用できないから、俺がやるからお前らが来いと、そういう形で言われたので、今こういう風に参加しています。なので、我々としてもそれは別に市民の方と対話の機会を設ける、設けたいなという風には考えていますので、必要に応じて適切に会を主催するなり、電話連絡するなり、今後も継続してやっていくと、そういった形になります。

先注会・松谷

私達が行ったのが4ヶ月前、ハゲヤマができて始めて色々疑問を持っていたのはもう数年前からです。その時に一度か二度でもいいですよ。自分たちから福島市民の方にこういう会を提案してされたことがありますか。

Amp 長谷部

それはだから、結果論ですよ、結果としてやってなかったっていう、ただそれを責めただけだと思うんですけども、そういった姿勢だとやはり議論になりませんので、今現状を踏まえた上で議論をしたいという風に私も考えていますし、そういった趣旨のご質問だという風に受け止めていますので、我々としてはもうそういう、重箱の隅を突くようなものでなく、建設的に意見交換したいなという風に考えています。

先注会・松谷

結構です。次の質問。

参加者 27

今回貴重な時間をいただきありがとうございました。さっきちょうど話してしまったんですけど、質問とお願いが1つずつあって、質問としては、松谷先生が今回このような機会をもってくれなければ、こんな150人来るような会は起こせなかったと僕は思っています。Amp社につけ足してお願いなんですけど、このようなそのことをする前に、1人1人しっかり質問とか情報公開を誠心誠意にやってほしいなっていう風には心の底から今回思いました。以上になります。

Amp 長谷部

これも繰り返しにはなりますけど、こういった対話の機会というのは今後も出ていくつもりではありますし、必要な情報についても弊社のホームページ作っていますので、そこを通じて随時発信していくと。そこに関しても色々ご意見あると思いますけど、情報足りねえよとか、そういうのがあるのであれば、ご意見いただければ。こういう情報が欲しいとか、こういうのを開示してとか、こういうのやってとか、そういった意見をいただければ、検討した上で取り入れられるものについては、もうやはり■ということはできないで、や

れる範囲でやるということにはなってしまうんですけども、できるだけ皆様の声を聞いて、それを反映させたいなという風には考えています。

参加者 28

私は 30 年くらいしかいられないと思いますけども、この子孫、50 年後、100 年後に山をあんなに乱開発してしまってメガソーラーを作る、それが日本でやられてて、格好の投資先に日本がなっちゃってるわけですけども。今、先ほど、土木の専門家を入れないと、日本の場合はカナダと違って山が急でだってなんで、凝灰岩で雨が多いってということで、ぜひ入れないと危険だっていうことを私お話したんですけど、その結果、先ほど聞き取れなかったんですけど、土木の専門家をこれから採用するなり、そういうことは、やるつもりでしたか。やらないんですか。大学の先生にアドバイス受けるとか。

Amp 長谷部

社員として雇うかどうかってことですよね。必要に応じて。今専門家使っていないってことはないので、必要に応じて今は外部の専門家に都度都度ご相談するなり、仕事をお願いするなりして対応しています。今後につきまして、社内でそういう専門家を抱えるかどうかっていうのは、今後の事業の進め方を踏まえた上で検討すると、先ほどもお答えした通りです。

参加者 28

ちょっと曖昧なわけですね。

先注会・松谷

はい、そうです。曖昧です。次。

参加者 29

最初に私はですね、先達山の森林と自然を守る会という会がありまして、そこで活動してる●と申します。最初の松谷先生に大変感謝してますので、ありがとうございます。最初にちょっとお聞きしたいんですが、日本に法律というのがありましてね、法律。それで、この開発、森林法に基づいてやられているんですね。それはご存じです？私はですね、1 月と 3 月に県と交渉を 2 回やってきました。県の方はですね、いわゆる書類審査でしかやってないっていうんですよ。現状を見てるんですかって聞いたらですね、見てないそうです。なぜかという、2 年、3 年で、公務員の人ですから交代するんですね。ですから、引き継ぎがよくやられてないんですよ。それでですね、この工事がですね、法律に違反してるということになれば、中止とかですね、この事業からの撤退、これをしなければならいんですけども、そういう認識はありますか。

Amp マルティン・シュタイン

はい。これはうちの法律に従ってあげております。

参加者 29

法律に反して、森林法の第5条に違反してるんですよ、はっきり言ってね。この森林法に違反してるということははっきりしてるんです。あと、福島県の条例になりますが、4月1日にですね、再生可能エネルギー発電施設の適切な措置と管理に関する条例で、この条例の中でですね、先達山は禁止区域に入っています。ですから、この2つを見てもですね、今回のこの工事や、あと、こういう今まで進めてきたのがですね、白紙撤回して、元に戻さなければならない責任があると思うんですよ。責任者の方、せっかく来てますのでね、これをぜひやるようにしていただきたいということですね。

参加者 30

鈴木さん、長谷部さん、マルティンさん、お越しいただいてありがとうございます。松谷先生、大変ご苦勞をかけて申し訳ありません。我々市民の問題です。県民の問題です。私も60年、原発反対、反対した原発の1号機の修理にも行きました。無関心は残念な双葉町の事故直前の財政破綻状態だったっていう行政の残念な姿も見てきました。今、県議会、福島市、市議会も、もっと県民、市民の本当の安らかな安全を願っていただけるならば、この先達山のメガソーラーは、自分たちの問題として松谷先生にこんなご苦勞をかけないで、もっと1人1人が考えるべきではないでしょうか。議員の皆さんも、ザル法だって言われているんだったら、それを埋めていかなきゃいけないんじゃないですか。それで、この事業主体が、前回の松谷先生のご案内いただいたように、この事業に出資している者の正体をまず正しく伝えて、そして皆さん1人1人のご家族を攻撃することもなく、松谷先生にもご苦勞をかけることもなく、福島市の職員にも県庁職員にももっともっと本当の仕事をさせていただくために、私たちができることをやって、議員の皆さんにも市議会、県議会でこの問題を本気で考えて、原発事故からメガソーラーじゃなくて、1人1人の生活が豊かになる電力をもっと本気で考えなきゃいけないんじゃないでしょうか。その専門家招聘っていうお話もありましたけれども、もう鈴木先生が度々ご協力、松谷先生のご協力でお越しいただいて、今回は福島大学の柴崎先生もいらしていただき、大変ありがとうございます。あとは議員の皆さんに本気でやってもらいたいと思います。県議会にも土木の専門家は議員さんもいらっしゃいます。ぜひ招聘していただいて、ご意見、ご参考いただいて、福島県民の電力ってなんなんだと。2050年に向けて、鈴木さんが先ほどおっしゃった数値目標、あれはなんでしょうか。

先注会・松谷

ここまでで、ありがとうございます。

参加者 30

最後に1つ。昨日の新任の県の土木部長さんが県北建設事務所での職員に対して、家族を大事にしてください、ご自分を大事にしてくださいっていうことを伝えたというふうにも聞いております。職員の皆さんも大変疲弊しています。1つ、本気で皆さんでこの福島県の電力をもう一度考えてほしいと思います。

先注会・松谷

とてもいいまとめの言葉を言っていただいたんで、私としても言うことないんですけど、一応定刻になりまして、ここ会場、撤収も含めて9時に終わらなければいけないので、閉じたいと思いますが。最後にちょっと。今の方もおっしゃってたんですけど、今日いらっしゃって、この地域、県の職員の方とかには私、来てくださいと。ぜひ一緒に行政の人にも考えてほしいなと思ったんですけど、実際なしのつぶてですし、議員の方も来てくださっている方います。ずっと来てくださっている方もいます。ですから、そういったのも、議員でどなたかってこと、事実も我々これから、3回やりましたので、これから誰が来てくださって、誰が来てくださらなかったのかっていうのは明らかになりますし、もし皆さんが今発言された方と同じように議員に働きかけしたいっていうのであれば、どういう議員がこのことを真剣に考えているかっていうのは、ある程度過去のその出席とか関心でわかるかなと思いますし。あと市議会、県議会の議事録見たら、誰がこの先達山のことで質問したか内容もみんな見れますから、いや、本当に皆さんに関心持っていただきたいです。私たちの作ってるこのサイトも、本当に私たちも仕事の合間にやってるので、そこまでもっとやりたいこといっぱいあるんですけど、できてませんが、それでも読むべきことは結構あります。特に私が今非常に残念に思ってるのが、こうやって顔を合わせて対話して、やっぱり私が言ったことを、切り取ったとか、攻撃の仕方が悪い。じゃあ皆さん、ここに書いてある、Amp社との対話って書いてある1、2ってここに後でありますから、私は絶対添削も加えずに全部、長谷部さんとか鈴木さんとかとやり取りしたメール、全部そのまま公開してます。切り取ってないんです。皆さんの目を見て、こういうやり取りが陰でなされてたんだと。で、本人が公開に同意した、前回。私がこういう会した後に、これが切り取りとかいい加減に一方的に言ってるかどうかっていうのは、私は皆さんに判断していただきたいです。私は、ですから自分が全然その問題ないとは全く思ってません。私は自分が信じたことをやっていますし、これが公の方でみんなにいつもリアルタイムでできないし。これもなぜ公開するかっていうと、今日これなかった人いるからやってるわけで、その結果はやはり私は自分で大事だと思ったことやります。皆さんも大事と思うのであれば、その経緯をきちっと見ていただかないと。この今日だけです。私の発言もそうです。今日の私だけ見て、あ、こうだなんだっていう風に言う。長谷部先生に対しても、今日

だけの長谷部先生、前からそうだったのか。今日は違う。実は今日もそうだったのか。それもやっぱり過去の経緯っていうのがありますから、そちらをご覧になっていただくようお願いしたいと思います。あとは最後、その、太陽光発電所の情報を出してるっていうのがこちらです。皆さん多分ご覧になったことないと思うんですけど、一応、Amp 社が作った先達の太陽光発電所っていうウェブサイトがあるんです。ご覧になってください。ここもちゃんとご覧になっていただければ、一体どんな情報が出てたのかって、情報開示してるとかやってるっていうのが、こんな代表者の名前もなく、こういう一般論を書いて、あとは現場の写真を貼ってるだけ。これが福島市民に対する、福島市に求められて作ったサイトの全容です。私たちはこれで不十分だと思ったんで、自分たちのバージョン作って、色々クレームが来ました。傷つけてるとかね、会社を。だったら、私たちが公開しないでいいように、こんなウェブサイト作なくていいように。先ほど、法人ウェブサイト作ってください。おたくが自分でこういう事業者っていう風にプレゼンテーションして下さったら、こんな会はいらなかったかもしれないし、こんな私たちの先達を注視するなんてなかったかもしれないです。なので、なんか本末転倒で、本当に細かい、そのね、これ言った言わないとかって、そういうレベルでトップも来て、こうだっていうことは、いよいよ本当に深刻な話で、皆さんこういった今日事実知ったこと、頭の中で覚えていただいて、あと周りの人にも結局こういうことなんだよと皆さんの中に理解することがあったら、それがやっぱり福島市民の全体の理解にも深まるし、その結果どういうことを市民が求めるっていうのも自然に方向性決まってくんじゃないかなと。よく聞かれるんですよ。何求めているんですかって。まず知ることですよ。知った後に、この経緯がわかってきたら、ここが問題だからこういう風に直そうとか、逆にここが問題だからもしかしたらやめようっていうかも知れないし。今までのこう、経緯っていうのは全部明らかにならないと展望できないんですよ。あまりにも今までの経緯が不明なところ多かったんで、私たちウォッチして知りたい。直接会って聞いて、だんだんこういう全体像とかを積み上げようとして、その先に何があるのかはこれからじゃないですか。今後ともずっと皆さんと話しますって約束して下さったんですから。皆さんも直接いろんなことをお問い合わせになるなり、なぜこのホームページにお問い合わせ先がはっきりと明記されないで、問い合わせフォームみたいになってるの？もっと気軽に読んで話聞かれたらいいかな。これだけ最後に申し上げておきたいなと思います。

先注会・梅宮

皆さん、今日お越しいただきましてありがとうございます。皆さんのご質問ですとかご意見の中にあった通り、あの山はですね、私たちの子供たちがこれから先に 30 年、40 年、見上げていく山なんですね。私も子供もたくさんいますけれども、福島市の小学校、おそらく出身の方いらっしゃると思うんですが、自分の学校の校歌思い出してください。必ず吾妻って出てきますよね。あの山を見上げて、皆さんこういう風に育ちなさいって言って、

皆さんこう育ってきたわけです。それを僕たちの子供たちに伝えていかなきゃいけない。あのメガソーラーの山は正直私は見せたくはないですよ。あれが普通の山、普通の景色になっていくような子育てはしたくない。だからこそ、こうやって今声が出てる。皆さんこれから自分1人1人で声を上げていきましょう。今日はお越しいただきありがとうございます。

先注会・松浦

皆さんお忙しい中、こんな遅くまでご視聴いただきありがとうございます。1つ確認したかったんですが、私が直接聞いたことではないんですが、長谷部さんか鈴木さんがおっしゃったことかなと思うんですが、この案件に対して、林地開発許可が付いているので買わないとか買ってくれと福島市から提案があって買ったんだという発言が私の耳に入ってきたんですが、これが確かなことであれば、福島市の木幡市長、議員さんもそうですが、相当な責任を持ってもらうしかないと思っています。

先注会・松谷

一言短くおっしゃりたいことがあれば。

Amp マルティン・シュタイン

すいません、本当に皆さん今日お忙しい中で、週末の時間。皆さんの意見、いろんなことを聞いていただいて非常によかったと思います。引き続き我々ができることは精一杯やります。

Amp 鈴木

すいません、ちょっと1個だけ聞きたいことがあって、会場の皆さんに質問です。自宅に太陽光発電がついている方って挙手願えますか。その中で蓄電池つけている人って何人ぐらいいますか。偉い。自宅で使う電気を自分の家で賄っていると思っている方、その内何人ぐらいいますか。偉い。こうやって電気の消費を減らす方法っていうのはあるんです。これ、皆さん1回よく調べてみてください。300万ぐらいかかるんですけど。やっぱりメガソーラーを作るっていうのは、いいことでもあったり悪いことでもあったり、場所場所やそういうことで違ってくるんですね。でも、1人の市民ができることって何かっていうと、その2050年のカーボンニュートラルに向けてやれることって言ったら、やっぱり蓄電池と太陽光を自分の家につける。マンションとかは難しいですけどね。買う電気を減らす。東北電力から。ここなんです。これを市民の方々が、私もやっています。一緒に、ほぼ毎月電気、東電から買ってないんです。そういうのをちょっと考えてみてもらって、もしかしたら変わってくるかもしれないと思います。はい、以上です。

先注会・松谷

よろしいですね。はい。そういえば本当に長い時間、トータルで4時間だったんで、そういう意味では本当に皆さん、お時間をいただきありがとうございました。最後に、次いつお会いできるんですか。

Amp 長谷部

ちゃんとした対話ができるのであればきますけど。ただ我々をボコボコにしたいだけなら来ないです。我々を攻撃的に、ただ言いたいことを言うだけで、サンドバックになれって言うのであれば来たくはないですけども、こういった形できちんと意見交換して対応ができるのであれば、我々としても対応いたしますので。よろしくお願いいたします。

先注会・松谷

相手を選んで対応するということですね。

Amp 長谷部

丁寧に頼んでいただければ、こちらも丁寧に対応いたします。

先注会・松谷

シュタインさん、いかがですか。

Amp マルティン・シュタイン

同じです。

先注会・松谷

じゃ、残りですね。私たち、会長、先ほど、休み時間に言っちゃったんですけど、我々もいつまで活動が続けられるのか、本当に消耗しますから、どうなるかわかりません。皆さんからもいただいた色々な応援は非常にありがたいです。やっぱり注視ウォッチ活動続けるためにはですね、資金も必要です。あと、福島人のような気持ち今日いっぱい来ましたが、それとともに、本当に注視活動続けて、我々調査は得意な方ですから、やるのであれば、応援ほしいです。今日、幟旗もあってですね、ただで寄付だけもらってね、義援金だけもらってるのもなんなので、皆さんと気持ち示すために、あそこに、のぼり旗がこう立ってて、全然怖くないですよ。可愛い。しかも、別に注視するっていうだけで、別にストップしろとか、反対運動で奇声あげたいんじゃない。自分の気持ちで、これに関心あってウォッチしてるっていう気持ちがあるのであれば、3000円以上寄付していただいた方はですね、あれを持って帰って自分とここに立ててくださいっていうのがお願いです。あとは、今日持ち合わせがないという、で、しかも高額だから、ちょっと義援金箱に入れる

のはなんだなという方はですね、ようやく私も東邦銀行さんじゃなくて、福島信用金庫に銀行口座作りしましたので、そこで寄付してくださる方はこちらにご送金いただいてもありがたいです。ということで、本当に長い時間ありがとうございました。